

もっと! 孕ませ! 炎のおっぱい異世界超エロサキュバス学園!

アートワークス

Let's creampie a young succubus with a lascivious mark.

コデアガシン



もっと! 孕ませ! 炎のおっぱい異世界超エロサキュバス学園!

アートワークス
Artworks





Contents

P005	版權イラストギャラリー
P020	夢々崎 魔恋
P030	キャルル・レストラム
P040	鷺宮 鷹美
P050	シャルティーナ・ルイトガルト
P058	キュンキュン・ナ・オルガナイト
P066	エルゼ・イヴ・ディアンタ
P074	セレスティア・ラシエール
P082	ロザリナ・ラファエロス
P092	ソフィア・フォン・マナグラス
P100	ファム
P108	ハーレム&その他イベント
P114	サブキャラクター (アルヴィネラ/フィリス/アンジェリカ/リジィ/リラ ベルダ/マロン/シトラ/ハビネス/ラグジュアル)
P112	背景コレクション
P114	衣装デザインラフ画セレクション
P126	インタビュー
P130	奥付





孕も炎のあっぱい異世界
超舌サキバス学園!
- もっと! 孕ませ! 炎のあっぱい異世界 超エロサキバス学園! -

Illustration Gallery







▲販促B2タベストリー (FANZA)



▲販促B2タベストリー (げっちゅ屋)



▲販促B2タペストリー (メロンブックス)



▲販促B2タペストリー (ソフマップ)



▲販促B2タペストリー (トレーダー)



▲販促B2タペストリー（駿河屋）



▲コミックバベル2021年7月号表紙イラスト

▶販促B2タペストリー (とらのあな)





▲サイン会限定複製色紙 (ファム/メイド服)



▲サイン会限定複製色紙 (シャルティナ/牛コスプレ)



▲クリアファイル



▲やわらかクリアチャーム(シャルティーナ)



▲やわらかクリアチャーム(ファム)



▲やわらかクリアチャーム(ロザリナ)



▲やわらかクリアチャーム(ラグジュアル/笑顔)



▲やわらかクリアチャーム(ラグジュアル/恍惚)



▲やわらかクリアチャーム(鷹美)



▲やわらかクリアチャーム(キュンキュン)



▲やわらかクリアチャーム(エルゼ)



▲ゲーム内未使用SD (アルヴィネラ)



▲ゲーム内未使用SD (ラグジュアル)



▲マスターアップイラスト

Mako Yumegasaki



色恋沙汰には不器用な水泳部所属のOcup幼なじみ

夢々崎 魔恋

Mako Yumegasaki [CV: こはる風]

身長: 160cm

スリーサイズ: B115 / W57 / H86

崎 羽精炎とは昔から家が隣同士で、毒舌だが明るく穏やかな性格の人間。精炎に思いを寄せているため、彼からの頼まれごとを断ることができず、いつも大変な目に合っている。今回も召喚儀式的トラブルに巻き込まれ、角と尻尾のあるサキュバスと化して異世界に転移させられてしまう。

「あれは！ そ、そのう……あなたが、今日はお前に大切な用事があるんだ、なんて言うからでしょ……う」



FACE COLLECTION



制服

サキュバス

水着

現世制服

裸

裸(淫紋)



魔恋「んっ……おぼおっ!? なっ、なに……? おっ、あ……ンぶっ、ごぶう……っ!」

急に鈴口からほとばしったザーメンに、魔恋が驚く。

魔恋(あっ、あっ、あ……こ、これが、精液?? 射精するほど気持ちよくなってくれたの? ああっ、嬉しいっ! こんなに出してくれるなんて幸せっ♥♥)

咥えられたまま射精してしまったので、そのままボロボロと口の中に精液が注ぎ込まれる。

精炎「わ、悪いい……!」

魔恋「も、もうっ……ひよ、ひょうがらいわれ……こんらに……ごぼっ、ンンっ、ちゃぶ……ン、ごくっ、ごく……ンンンっ」

「ああ……ン、もう……なんて匂いなの……生々しくて……いかにもオスって感じの……野性的な……はあん」

魔恋「ひいっ! はっ、はひっ! はあっ、ひゃあああっ、あひいいいっ、す、吸われてるううっ! 乳首っ、乳首がっ、ンひいいいっ♥♥」
強く吸われているせいか、母乳の分泌量も増えているような気がする。なんというか、もうビュービューと大量に出まくっている感じだ。搾乳機に見とれていると、魔恋が催促するように腰を振り始めた。愛液の量めめちゃくちゃ増えている。どうやら搾乳されることで感じてしまっているらしい。

精炎「どうした? そんなに腰振って。おっぱいミルク搾り取られて気持ちいいのか?」

魔恋「そっ、そんなこと、にやいけどっ……くふうううっ! はあっ、ンンンうっ……ああン、お願いっ、もっと動かしてえ……ンはっ、ひいっ、はあん!」

「きゃはああああんっ! ダ、ダメっ……強すぎ……あううっ、あっ、あうっ! あああン、ち、乳首があ……きひいいいい〜っ!」



（んああっ、れも、私、いっぱい子宮にら
ひて欲しくなっぴゃってりゅ……あっ、あ
あっ、種付けされたら、どうにやっちゃう
によ？ ひゃはああああん♡♡）

魔恋「ふわあああああっ！ イクっ、イッひゃうっ！ ひゃあああああ〜〜っ!!」

乳首から母乳を噴きながら、魔恋も俺に追いつくように絶頂まで辿り着いた。

魔恋「ひゃああああん、ミ、ミルクもいっふあい出てりゅううっ、ああああああっ、おっぱいイッてりゅうーっ！ はあうっ、ああっ、んっく、ふああっ!!」ビュルビュルと白い汁を撒き散らし、魔恋は大きく全身を跳ねさせる。かなり深い絶頂を極めている。

魔恋「あ、あああっ、にやか出ししえいえき、お腹のにやかにたくひゃん……あああ……しゅ、しゅごいつ、こんなに感触、初めてええ……♡♡」

うっとりとした恍惚の表情で甘い絶頂感を食う魔恋。ああっ、なんていうか、めちゃくちゃ可愛いぞ！

精炎「はあ……はあ……ま、まだ物足りなさうだな？」

魔恋「しょんらこと言わにやいれえ……は、恥じゆかひいよう……あふうっ、あっ、んっく、ひはあっ!!」





「あうん、も、もう……やはああん！ 敏感なところ……舌でペロペロするのやめてよお……ああつ、ンンンっ、ダメえ……」

魔恋「はひや……あつ……あつ、でっ、出ちゃう!? くひやあああつ!! ンっ……やあああああつ!!」

おお! 混乱したように喘ぐ魔恋の股間から派手にオシッコが噴き出した。

魔恋「あああん!? いやっ! お漏らしなんて恥ずかしいっ! はあああん、止まってえ……止まってよおお～……ああつ、はあ……ンンう」

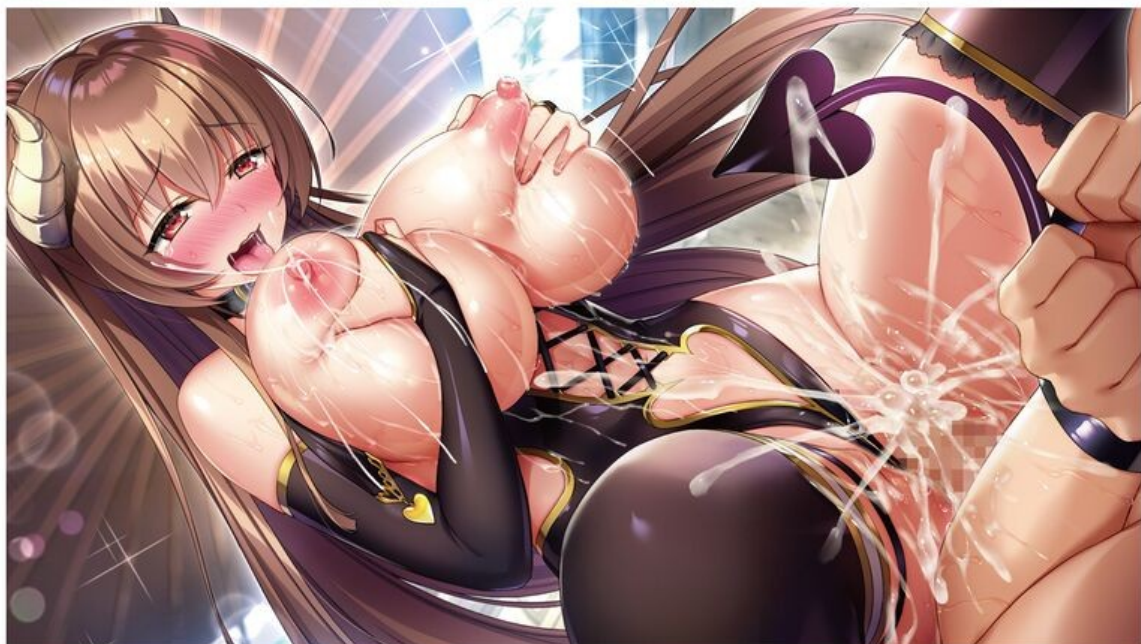
真っ赤になって叫ぶ魔恋だったが、湯気のたつ黄色い液体の放出は止まらなかった。

精炎「ずいぶんいっぱい出るなあ。我慢してたのか? 休み時間に済ませておかなきゃダメだろ」

魔恋「い、言わないでよおお! 好きでお漏らししてるんじゃないからあ……うううっ、も、もう、死んじやいたい……うううっ」



「アంతタの精液……もつと子宮れ、たつぷり飲みたいのお……
もつといっぱい、ザーメンであふれしやせてえ……♡ はあっ、
ンンンうっ……ああっ……」



魔恋「きゃはあっ♡ 出た出た♪ ザーメンど
っぴゅどっぴゅ♡ ひやははあっ♡ おマン
コの中、いっぱい来てるうん♡♡」
それはもう、とんでもない勢いと量で、まるで鉄
砲水のような。堰き止められていた快感が
一気に解放されたのだから止められない。精
液が尿道を押し広げるようにしてペニスの中を
駆け上がる感覚。精液がとめどなくポンプで汲
み上げられ押し出されているという感じだ。
魔恋「ふわああああっ！ 中出しされてイッ
ひゃううっ！ 、おマンコイクっ♡ ザーメンで
イクイクっ♡ イックううう〜っ♡♡」
嬉しそうに魔恋は精液を子宮に吸い上げ、潮と
母乳を飛ばしながら派手な絶頂に達した。
魔恋「ンンんっ……くはあああっ……おチンポミ
ルクう……はひいっ……あううっ、はうん……ン
ンんっ……はあん……くううううん♡」





「うああっ! あひいっ、ンっ! お、奥っ……ンンンっ、ふ、ふううっ、届いて、ふああっ、気持ちいいっ……ンあっ、あああああっ!!」



すでにおびただしい量の愛液で満たされている膈内に、精液をドビュドビュと放つ。

魔恋「ンああっ! イクううっ!!」

ほぼ同時に魔恋も全身をガクガクと痙攣させた。

魔恋「ひゃああああっ、中にいっぱい来りゅううっ!!」

脈打ちながら欲望汁が噴き出すたび、下半身がとんでもない快楽に包まれる。

魔恋「はああっ、中出ししやれてイッてりゅっ! おマンコにたくしゃん出してもらってイクっ、ああああっ、イクうううっ♥♥ ニンっううううううっ♥ イクっ……ンううっ、イク、イクの……うあああああっ!!」

イキながら魔恋は、絶賛射精中のチンポを猛烈な勢いでギュウギュウ締め付けてくる。



「もうっ……ほ、ほんろに、ドスケベなくせに甘えん坊なんからあつゝ
こんなにつふあい出ひゃれたら、もう我慢できにやいりやない……♡♡♡」

魔恋「んあっ、ふうっ……ああっ、おチンポが脈打ってドクドクれてりゅっ♪ おっぱい溶かされひやう♪ もっろ、もっろいっぱいらひてえっ、んあああ♡ はあああっ……こ、この匂い、たまんにやいによ！ ザーメンミルクたっぷりかけらりえて、幸せえっ♡ はひいいん、しえいえき、らーいしゅき♪」

精液まみれのまま全身をガクガクと痙攣させ、魔恋は絶頂を食る。

魔恋（はひゃあっ、だいしゅきな彼のおチンポじるっ♡ わたひのおっぱいれ射精ひてくりえてうれひいっ♡♡ あは、ああっ、くふう……はああん♡）

魔恋は欲望を吐き出した肉棒をギュッと乳肉で圧迫し、なおも気持ちよさそうに扱き立てる。





「きゃああああっ!?
バスの力らのっ? あああ、しゅごいっ
本当に妊娠しちゃっらよおっ♡♡」

魔恋「ひゃふうっ! ンンっ、らして
っ! いっぱいらしてえっ! おチンポ
ザーメンもっろもっろ、わらひの子宮に
いっふあいしよしよぎこんれええ♡」

精炎「よしっ……出すからな! ううう
うっ!!」

魔恋「イクううっ、イクっ! あ、あああ
あっ、ンひいいいっ! イクううう
♡♡」

盛大な射精を待ち構えていたかのように、
魔恋も同時に絶頂へと駆け上がった。子
宮にたっぷりと精を注ぎ込んだ後、引き抜
いて残りの精液をぶちまけてやる。

魔恋「ひゃはっ、あひっ、おチンポミルク
まみれにしゃれてりゅっ♡ ンああああ
あっ、あちゅいっ♡ あちゅくて気持ちい
いっ♡」

白濁液を大量に浴びながら、魔恋はガ
クガクと全身を震わせて、連続で幾度も
アクメを極める。

魔恋「あああっ、まらイクうっ! イクに
よおっ! イクうううっ! あひいっ、
イグううう——っ!」



魔恋「ああっ、子宮が熱くなってりゅっ♥♥ ンおおおお
おツツ♥ あはああああ……♥」

母乳も盛大に噴き出して、魔恋の身体は白い液体まみれだ。

魔恋「ほおおっ、しえいえき熱いっ♥ イクっ！ イク、イクイク、イっちゃうう！ イグううっ♥♥」

身体の中も外も大量の精液を浴びて、魔恋は幸せそうに潮までふきながら絶頂する。

魔恋「はっ、ひっ……おおっ、んほおおおっ♥ おおお……
おおっ……おおおうっ……♥」

ピクピク痙攣しつつ、獣のような声をあげ続ける魔恋。まったく……こんな可愛い顔、俺以外の誰にも絶対に見せられないな。

魔恋「も、もう、こによおチンポかりや、離れられにやいい……
♥ はあはあっ、アンタのおチンポしゅき♥ しゅきいい……
♥ うへあああ……♥」



「くひゃあっ♥ あちゅいのぶっかけ
られふえりゅっ♥♥ ほおおおっ♥♥
赤ちゃん汁ううっ♥♥」





「ああん、もうっ……お母さんだけじゃ
なくて、私のほうももっとな気持ちよく
してえ……シンシンっ！」

魔恋「んはあっ、お母さんが感じての可愛いつーんちゅちゅっ、ちゅば、ちゅばばっ、じゅるちゅるぶちゅりゅじゅるっ♥♥」

精炎「んぐ、んぐ、ちゅううっ！」

俺と魔恋に両方の乳首を責められながら、魔美さんはどんどん高まってきた様子で腰を激しく振り始めた。

魔美「くっふううっ、んっ、ああっ、も、もうらめっ！ 排卵日マンコが子種ザーメン欲しがってるうっ！ ンあ、ああん、あんっ♥♥」堪えきれなくなったらしく、魔美さんが少しずつ身体を震わせる。それに釣られるように、魔恋もせっぱつまった声をあげる。

魔恋「んひっ、ふあっ、ふあああっ！ イ、イキそうっ……私もおっ！ アンタの指でおマンコグリグリしゃれてイっひやう……シンシンっ♥♥」

魔美「ふあああっ、わたしも……あああっ、イクっ……イクわあっ♥ イクから中に出して！ 中よ、中っ！ 子宮にいっぱい子種ようらいっ♥♥」



Carole Restram



チアリーディング部で活動しているQcupツンデレ少女

キヤルル・レストラム

Carole Restram [CV: 水野七海]

身長: 157cm

スリーサイズ: B118 / W56 / H84

Q-cup

現世で自分を召喚しようとしている精炎の姿を眺めていて、いつの間にか惹かれてしまっていた小悪魔的サキュバス。クラスメイトから慕われる明るい性格だが、精炎の前では自信家ツンデレスイッチが入り、上から目線な態度をとってしまう。気持ちを素直に伝えることを苦手としている。

「そんな軽々しく言うちゃっていいの!?
わ、わ、私はその別に……イヤじゃないけど……
あんたさえよければ……いつでも♥」



FACE COLLECTION





キャルル「待ってまってっ、まっれえ♥ らめらめっ♥
またらされたりや、頭こわれりゅううッ!! ひひ
やアアアア♥♥」

肉竿を膣底にまで食い込ませ、噴出する精汁をビ
チャビチャと叩き付けた。身も心も制御が利かな
いエクスタシーに翻弄され、キャルルがまたしても
声にならない悲鳴を上げる。

キャルル「んにやあああッ♥ またきひやった
ア♥ 熱々ザーメンっ、処女マンコの奥ウ♥ き
もちすぎへらめええ♥♥」



「あ♥ あッ♥ イッへるのにイッ、ひゃああ♥
ザーメン出しながら動いひやらアッ、またイクううッ♥」





キャルル「ひあ♥ あ♥ あッ♥ 可愛いっ言われなかりゃ、中出しするっ言われてもおっ、断れなひィ♥♥」

思考が働かない状態でジュコジュコと激烈なセックスにさらされているキャルルが、嬌声を上げて悶える。精液を吸おうとするが如く、自らもくねくねと下半身を振り始めていた。

精炎「そろそろ出そうだ!」

キャルル「あうう!♥ オチンポおっきくなれる♥ オマンコの中れ、ドクンドクンって跳ねれえ、んああ♥ 中に出すって主張しちゃっへりゅう♥」

はしたなく吠えるキャルルは、また呂律が回らないくらい強烈な快感に飲み込まれていた。母乳を漏らす乳さえも、ブルブルッと振り乱している。膣内の媚肉も、より深くに肉棒を誘い込むかのように粘膜をうねらせていた。

（こんな体勢で……っ、向かい合って、抱き合って、いっぱいキスまでしてえ……っ、こんなのまるで、恋人同士みたい……♥）





「んひ!? ああッ!? ミルクうつ、おっぱいにす
り込まれてるウ!? んはっ、先っぱにも当たって
……あんうっ♡」

キャルル「ンッ、うう……ちょっと、聞こえてるんでしょ?
おっぱい触るの……っ、ハアッ、ハア……やめなさい
……っ」

精炎（言われてやめるくらいなら初めからしてないぜ!
それよりもっと気持ちよくするぞ!）
魔導書の力で、手をいくつも生み出すことができた。これ
を使って、キャルルの身体中に手の平をねっとりと這わ
せていく。

キャルル「はひッ!? なっ、何よこれ!? あンッ、おっぱ
いだけでなく……っ、きゃ!? 太腿お!? お腹もっ、
んんんッ!?」

母乳で滑る乳肉を弄びつつ、キャルルの全身にまで手を
伸ばす。汗が噴き出している生肌にくたぐたと手の平を
張り付け、ねっとり滑らせていく。

キャルル「ひんんウッ!? 手……やめで……! はうっ、
んん♡ 気付かれちゃうからア!」

抗議の言葉には答えず、ピンクに上気した肌を撫で付け
る。キャルルは不安そうな、でも熱っぽい溜め息をこぼ
し、身震いしていた。



「ほほンンラッ!!? しょれえっ、入っへるじゃない♡
おんんっ、オチンポっ、お腹の奥までっ、届ひひゃてるウツ♡」

困惑の声を上げるキャルルを尻目に、無防備な尻穴へと亀頭をあてがった。

キャルル「ひににンッ!? そこっ、おっ、お尻イ……ッ!」

精液と愛液でどろどろの肉竿で、窄まっている肉穴をこじ開けていく。

キャルル「ひほッ? おっ、うう!? おおっ、お尻イッ? らめえええッ!」

精炎「うわあ!? チンポが取れそうなくらいの締め付けッ!」

おそらくキャルルは、アナル処女だろう。

精炎「キャルルのアナル処女、俺がもらっッ!」

キャルル「ひほほンッ? ばっ、バカあッ! アナル処女なんへっ、らめだったらアあッ!」

排泄の穴を無理矢理押し広げられ、異物を詰め込まれて、キャルルはブルルッブルルッと身を震わせる。

キャルル「はおっ、おっん!? んんウっ、お尻イッ、苦し……!? くふおッ! んぐぐッ!」



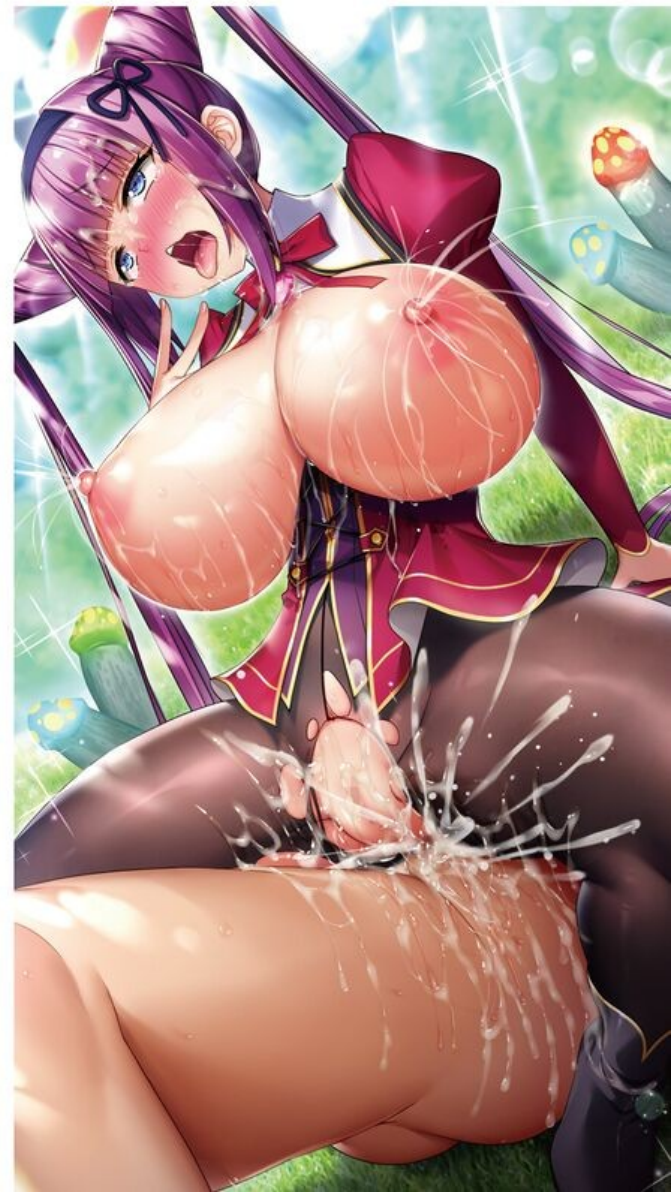


「アナルイキなんて、変態すぎへっ、らめよお♥でもれもっ、
お腹の芯がキyunキyunしへっ、耐えられにやひい♥」

キャルルは獣のようにみっともなく吠え、ガクガクッと背筋を波打たせる。俺も同時にキャルルの尻たぶに下腹を叩き付け、腸の奥で精液を放っていた。

キャルル「ほおおんっ♥ お腹にあちゅイザーメンきひやあぁ♥ おん♥ おっぱいも出りゅううっ♥」
灼熱の汁を腹の中で感じてオーガズムに没するキャルル。乳頭からはブビブビッと音を鳴らし、はしたなく射乳していた。

キャルル「あひやあぁっ♥ しゅごいよお♥ アナルイキっ、きもちよしゅぎひいっ♥♥」
膣よりも激しく上り詰め、強烈な快感に寄り目にまでなっている。唇から漏れる声も完全に快楽に染まりきり、淫楽の谷に落ちてしまっていた。



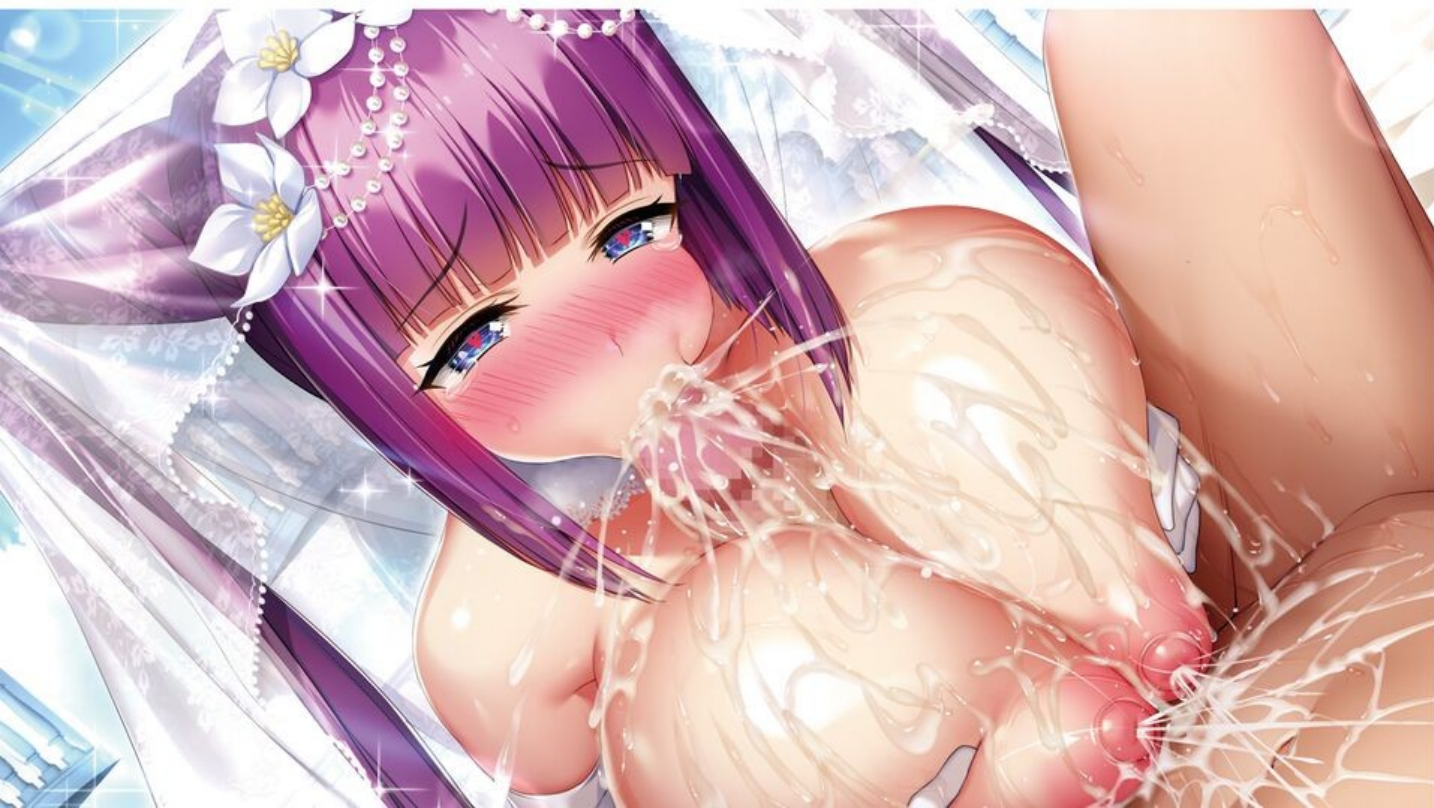
「はぶアあん♥ザーメンっ、しゅきいい♥
喉に絡まりゅのもっ、ぐごごろなのもっ、イイのお♥」

キャルルの激しい愛撫にさらされ、
この上ない絶頂感がただただ続
く。とんでもない快感は脳内にまで
侵食し、頭まで痺れてきた。

キャルル「ザーメンっ、ぢゅぽっ、ぢ
ゅぽっ♥ もっほちようらい♥
オチンボらしへえ♥ ぢゆるるっ、
ぢゅううう♥」

粘液でグチョグチョの柔乳でズリュ
ズリュしごかれ、窄めた唇で亀頭を
ズリズリと摩擦され、鈴口をズル
ッと吸い立てられる。身体の内から
何か大事なものが抜かれてしまうか
のような錯覚を起こすほど、キャル
ルの口淫奉仕に弄ばれていた。

キャルル「ザーメン♥ じゃーめん
ん♥ ジュボボッ、んぼ♥ ぐぶ
ん♥ もっともっとお口にらしへ
え♥ ずちゅうちゅうッ! ジュジ
ュう♥」





怒張したままの肉棒を膣奥にまでゴチュゴチュと叩き付ける。

キャラル「ああおんっ♡ おほっ♡ オチンポとザーメンれ、オマンコいっぱい♡ ジュコジュコほじられりゅのらめえええ♡」

律動を始めるとすぐ、膣内の粘膜はうごうごと蠢き、幹に縋り付いてきた。

精炎「ザーメン、一滴残らず搾り出すつもりなんだなッ!」

キャラル「そうッ♡ オチンポきもちいひかりヤッ♡ ザーメン子宮れゴクンしゅるのっ、ハマっちゃっぴゃのおおお♡」

精炎「俺もっ、キャラルのエロマンコにハマってるぞ! 腰止まんないからッ!」

キャラル「嬉しひ♡ あへええ〜♡ その言葉られいっぴやう♡ せっくしゅされながら言われへ、ひゃハあああ♡」

「んへええ〜♡ はっ、あひゃっ、んひゃひゃア♡
子宮れイグのっ、しゃいこおおお♡ 子宮イギしゅごひィィ♡」



「きゃんんんウ♥ すっごひ♥ ひゃああ♥
熱々のザーメン出てるウ♥ おっぱいにきて
っ、ああ♥ おっぱいに中出ししてるウ♥」

ベルディア「んああ♥ 熱ひ♥ ザーメンっ、んんふ♥ 濃厚れすわね♥ んふふ♥ プルプルれ、喉に引っかかりまふ♥ ゴクンッ!」
口中に溜まった雄汁の塊を舌で弄んだあと、ベルディアさんは生白い喉を蠢かせて飲み込んだ。

キャルル「ひゃあああッ!? ママ、ずるイ♥ 私もザーメン飲むんだからあ! お口にちょーらい♥ はええ〜ッ!」

キャルルの要望にも応え、下腹部を突き出してドビュドビュと吐精する。

キャルル「ひゃあああ♥ しゅごひ♥ ザーメンお口にイ♥ んああっ、舌が火傷しひやう♥ んちゅうっ、んっく……ゴクッ♥ んひゃ、きやふう♥」

キャルルまでぐびっと喉を鳴らして男汁を飲み下してしまった。

けれどキャルルは、まだ涼しい顔をしている母親とは違い、顔が淫らに蕩けていた。



「ひゃふうッ!? んっあ♥ それはア……!
んひあッ、ゴリゴリに硬いオチンポがっ、おっ
ぱいをゴリゴリ……擦ってるウ♥ 熱いよお♥」

乳の狭間を膣穴のように扱われているというのに、キャルルは淫らに表情を崩して喘いでいる。半開きにした口からはだらしなく舌を放り出し、よだれもだらだらと流して快感の渦に身を投じていた。

精炎「またミルクが出てきた! おっぱいマンコのセックスで、感じまくってるんだなキャルルっ」

キャルル「感じへるウ♥ ひにやつ、ひゃああ♥ おっぱいマンコお、オチンポれゴリゴリ擦られへっ、しゅごいきもちひイ♥」

いつもは素直じゃないキャルルが、快楽に溺れてしまっていることを自ら口にしている。このギャップにたまらない興奮を覚え、律動が止まらなくなる。

精炎「チンポろうそくも悦んでもらえて、準備してきたかいがあるってもんだ」

キャルル「チンポろうそくウッ、んひああん♥ いひイ♥ もっとおっぱいマンコに、ズブズブぶっ刺しへえ♥」





幹に絡み付くようなベルディアさんもいいけど、キヤルルの膣圧が高めの淫裂もすごいぞ！

精炎「ダメになっていいぞキヤルル！ 今日ここに誘ってくれたお礼も兼ねてるから！ うっ、ちゃんと満足させるからな！」

キヤルル「満足うっ、させへええ♥ ラストダンスれっ、ひああ♥ オマンコもザーメンれいっばいにしひええッ♥」

精炎「中出しがいいんだっ？」

キヤルル「中出しきへほしい♥ ひゃあああん♥ オマンコの奥にっ、ザーメンビュルビュル出しへくらしいッ♥」

キヤルルも呂律が回らなくなるくらい、愉悦に没している。とろとろになった顔を向け、淫らにも膣内射精を懇願してきた。

ベルディア「ああ♥ いけません！ あたしを放っておくなんへえっ、らめれす♥ んひゃあ、ご立派おチンポさんっ、あたしともダンスを！」

精炎「わかりましたっ。まだラストじゃないから遠慮なく！」

キヤルルの膣から、ベルディアさんへと変更して律動する。

ベルディア「あひああ♥ そうっ、そこ♥ あなたのっ、マンコの中のおチンポダンスう、しゅごひييИ♥」

肉槍を突き込んだ瞬間からベルディアさんは乱れ、アクメに囚われていた。

キヤルル「オチンポっ、こっちにも♥ 私とダンスしへえ♥ オマンコ使ってエロ舞踏くらひゃいИ♥」

「こらあっ、ダメえ！ 今は私のオマンコに集中しなさいよお！
ハアッ、ハアッ、ママに浮気しちゃ、やだア♥」



鷺宮 鷹美

利かないScup学級委員長

鷹美

ashimiya [CV: 夏樹柑菜]

H88

「そうね。アンタがいなくなるのが番平和だと思っのよ。だから早速、ヴァルハラに旅立ってもらおうかしら。あーあ、ざんねんねんねんねん♥」

A detailed illustration of a young woman with long, straight red hair and blue eyes. She is wearing a red and black school uniform with a white collar and a red bow. She is kneeling and holding her large, prominent breasts with both hands. She is wearing black thigh-high stockings and black shoes. The background is white with some faint, stylized text.

「そうね。アンタがいなくなるのが番平和だと思うのよ。だから早速、ヴァルハラに旅立ってもらおうかしら。あーあ、ざんねんねんねんねん♥」

A 4x3 grid of 12 anime-style character portraits. The character has long, straight, reddish-brown hair with bangs and is wearing a white collared shirt with a yellow tie. The expressions are as follows:
Row 1: Neutral, slight smile, looking up and smiling.
Row 2: Mouth open in surprise or excitement, neutral, angry or determined.
Row 3: Sad or thoughtful, mouth open in surprise or excitement, mouth open in surprise or excitement.
Row 4: Mouth open in surprise or excitement, eyes closed in a happy or content expression, blushing with a slight smile.

裸(淫紋)



口内射精されて驚愕し、鷹美は目を大きくして慌てて唇を放した。解放された肉棒が乳の狭間で暴れ回り、精汁をあちこちに飛び散らせる。

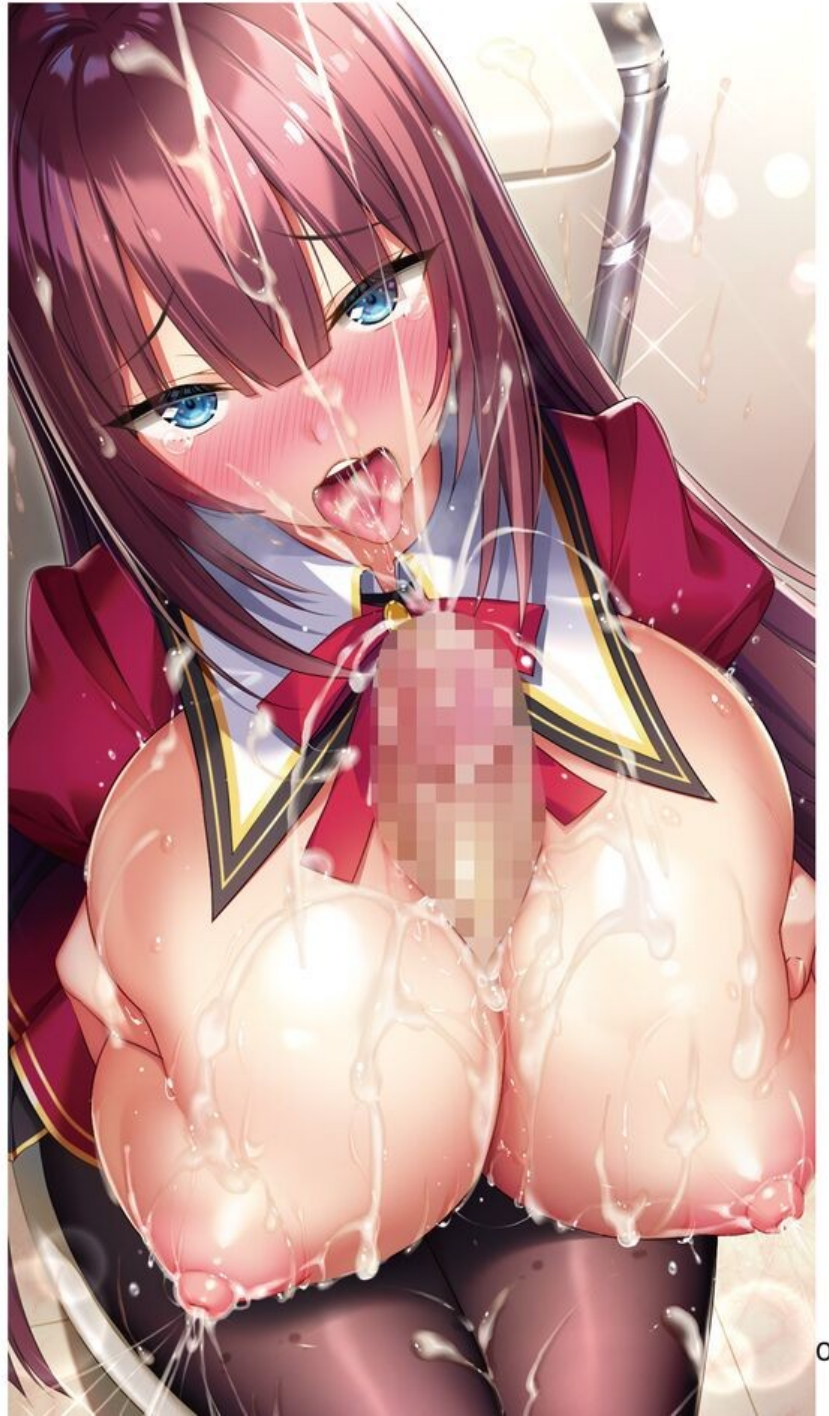
鷹美「んひゃああッ!? 精液っ、かかってえ!? ああッ、口の中にもお……♡ んくッ、ゴクンッ♡ ンはああ〜ッ♡♡」

栗の花の臭気が立ち上る汚汁を身体に浴びつつも、口に溜まっていた男汁を喉を鳴らして飲み込んでいる。しかもそれが相当においしく、また相当に高揚を得られたようで、まるで鷹美まで絶頂したようにビクビクッと仰け反っていた。

鷹美「あはあ〜♡ 射精っ、すごひい〜♡ 精液って……ああッ、おいしくてえ……っ、熱くてえ、興奮しちゃうのね……っ♡」

鷹美は乳房にギュッと圧力をかけ、精を搾り出そうとする。乳の肉突起からは、はしたなくビュビュッと母乳を噴き出させている。強い快楽の中にいるかのように、舌までべろりと突き出し、喜悅の表情を浮かべていた。

「あはん♡ 腰っ、震えちゃってるわよ? んふ♡ ハアッ、んん! そんなに気持ちいいのね♡ はんんッ♡」





(私……こいつの精液をオマンコで感じるの、
クセになっちゃった！♥ そんなのダメよ！
ダメ……ダメだけど、でもイイイ♥)

鷹美「いくッ♥ ひぐッ♥ ンンンっ、オマンコに精液もらっへ
イグうううう〜ッ♥ ~~~~~ッ♥♥♥」

鷹美は声にならない声を上げ、オーガズムに達する。引き付けを
起こしたかのようにピクピクッと全身を痙攣させ、乳汁をビュチ
ビュチと飛び散らせていた。

鷹美（中出しでイクのっ、すごイ♥ オナニーなんて比べものにな
らない♥ 気持ちよすぎてっ、私……アへっちゃってるうう♥）

鷹美は淫楽に没入した絶叫を放ちながら、真面目な委員長とし
てはあり得ないほどだらしないアクメ顔を浮かべていた。

精炎「オナニーよりも気持ちいいって……ひょっとして俺のこと考
えながらしてるのか？」

鷹美「そうっ、なによおオ♥ アンタのこひよ考えながりやオナニ
ーしゆるのっ、イイかりやあ♥ ふええん〜ッ♥ （わっ、私
っ、何言っちゃってるのよ！ でもっ、何もかも我慢できない！
こいつとのセックス、よすぎてダメえ♥）

オルガスムスのさなかにいる鷹美の心も、ノーガードになっていた。



「バカあああッ！ アンタに見られりゅのっ、らめなのオッ！
悔ひイのにつ、おしっことまらなくへきもちいひイイッ!!」



鷹美「ひひひん!!? らめッ! らめええッ! チンポ動かひひッ!? 出ちや……ッ! あああッ、出ちやうからアッ!」

何を我慢しているのか、俺の頭の中にも鷹美の叫びが割り込んできていた。我慢を崩壊させるため、肉槍でズコズコと膣底を突き回した。

鷹美「いやいやっ! だめえええッ! ひやめッ! もうっ、出……ッ!? きゃあああッ、ダメ出るッ!」

鷹美は首をふりふり、律動から逃げ出そうとする。でも身体は絶頂の余韻で痺れ、まったく言うことを聞かないみたいで、されるがままになっていた。

鷹美「ひゃああッ!? お願ひ待っへッ! いやっ、いやあああッ! イイイイん!!?」





鷹美「乳首、二つとも吸われてっ、くはあ♥ 頭の中、ビリビリ痺れてるのにっ、腰までジリジリしてきてっ♥ きゃああ♥ 気持ちいいのオッ♥」

鷹美は嬌声を上げ、下半身をくねくねと淫猥に踊らせる。相当な快感を覚えているようで、目をとろんとさせ、口も半開きにしながら何度も熱い息を吐いていた。

精炎「鷹美がエロ可愛いから俺も調子に乗っちゃうぜっ!」

じゅずっと思いつき吸い付き、陥没乳首を引っ張り出そうとする。

精炎「二つの乳首からミルク飲んでやるッ!」

鷹美「あひひい♥ おっぱい引っ張りながらっ、はッ♥ ああ♥ 母乳も吸い上げられてっ、んあ♥ 考えが……まともなくなるッ♥」

乳房を噛みちぎる勢いで乳先にしゃぶり付き、ぐいぐいと引っ張る。刺激によって漏れてきた乳汁を、喉を鳴らして飲み込んだ。

「味わわれてるッ♥ はああっ、アンタにおっぱい搾られてっ、くはあっ♥ チュウチュウ吸われてっ、味わわれてえ……私悦んじゃってるよお♥」



「かつ、母さん!? えろれろおっ♥ 舌あ、私に絡ませないれッ♥ レロレロベロンッ♥ 先が触れ合うひよ、ソクソクきひやう♥ レロロ♥」

汗と母乳が馴染んでズチュズチュと淫猥な音が鳴り、竿がズリズリと擦り立てられる。

麗子「あああ〜♥ おっぱいの間でドクドクと跳ね回るオチンポ、とても嬉しい♥ レロンッ、ベロンッ、レロロッレロロン♥ いつもこんな、立派なオチンポれっ、ぐちゅ、ベロレロお〜♥ ハア、娘をご指導、くらさってるのれすね……♥ はあああ、れちゅっ、ちゅるッ♥」

鷹美「だっ、だから母さんっ、ベロベロっ、じゅる♥ いつもりやないっひやら! レロンッレロンッジュルッ♥」

精炎「いやいや、いつもだろ。鷹美は覚えが早くて、優秀なサキュバスですよ」

鷹美「ひゃああ!? 恥ずかしいことっ、言わないれってばあ♥ チュルチュルッ、レロンッ、レルレルルッ♥」

文句を言うものの、鷹美は乳で摩擦し、舌をなすり付けることをやめなかった。



「子宮れもっ、チンポチュウチュウすりゅのお♡
子宮れチンポ吸っへ、子宮れ精液飲むかりゃあ♡
おふっ、おっんう♡
ンンンあッ♡」



鷹美「あオオオンッ♡♡ また中出ひきひ♡
んおおお〜♡ 母乳もお潮もっ、まひゃ出ひや
う♡ おほおおお〜♡♡」

子宮内で男汁を受け止めている鷹美は、はしたなく寄り目になってオーガズムに達していた。いやらしく垂れ下がる乳の先端からはビュビュッと乳汁を噴き、結合部の少し上の小さな肉穴からは放精するが如く透明の液体を噴出させていた。

鷹美「精液しゅごひィィ♡ 子宮の奥につ、ピチャビチャ当たっで♡ オンんん♡ 子宮イキシゅりゅウウ♡」

ガクガクンッと思うさま肉体を暴れさせ、繰り返し上り詰めている。激しく揺れる身体からは無数の粘液が放たれ、鷹美の全身は汁で汚れきっていた。



「オマン」のおもちやうつ、
ンおおお♡ 擦れちゃっでえつ、
お♡ おッ♡
アナルイキしながらオマン」も
絶頂しちゃううっ♡」

精炎「じゃっ、このまま出すからな！ アナル中出しッ！」

鷹美「おひんッ!? アナル中出しなんへっ、ダメええ！ 今っ、奥に精液出されたらあッ♡くほおおおッ♡」

ダメと言いつつも、鷹美は逃げ出したりする様子もない。それどころか嬉しそうに表情を蕩けさせ、俺の下腹にぶつけるように下腹部をくいくいと持ち上げていた。

精炎「アナルも中出ししてほしがってるぞ！」

鷹美「おほおんッ♡ それれもっ、ダメなのオッ♡ アナルの中あっ、精液きちゃったらア♡ あおおっ、もっとダメになっちゃう♡」

精炎「ダメになっていいぞ鷹美！ ダメにさせるッ！」

鷹美「そんなッ!? おひひッ♡ もう無理っ、んんぐッ♡ イク！ イクッ♡ アナル処女だけどっ、アナルセックスでイクううう♡」

鷹美はまたしても顎まで突き出し、身震いしている。切迫した声を上げながらも、なりふり構わず腰をいやらしくねらせていた。





「しゅごおおお
中出し精液れオマン」
イクの止まらなひ
イイっ♡

怒濤の勢いで飛び出す男汁に身体の芯を打たれ、鷹美はオーガズムに悶絶している。下腹に浮いた淫紋を煌々と輝かせ、その下腹部を思うさまくねらせて、精を搾ろうとしていた。

精炎「大丈夫だぞ鷹美っ！ まだまだやめないから！ ザーメン、中出ししまくってもっとイカせまくるぞ、マスターとして！」

鷹美「イカせっ、へええ〜♡ マスターとしへっ、ひゃん♡ 従者を、可愛がっへえ♡ 従者イキシひゃいのオオ♡」

柔乳がブルブルと揺れるくらい肉体を震わせ、乳頭からは母乳をビュビュッと噴き上げて派手に上り詰めている。クラスのとめ役である真面目な委員長が今や、淫楽に墮落したアクメ顔をさらして悶えていた。

精炎「従者イキさせてやるぞ！ ほらっ、マスターチンポで子宮攻めっ！」

鷹美「ひオオオン♡ イッへるときにっ、チンポが子宮にひイイ♡ 頭っ、おかしくなりそう♡ ンンっ、いぐウウ♡」

罌が解除される気配がないので、気合いを入れて抽送する。絶頂中の鷹美はさらに快感を積もらせ、恥じらいもなく果てていた。





「んぐああん♡
あつ、ああ♡
くああん♡」
みつ、見るなバカあ♡
母乳つ、止まらない……ッ！

鷹美 (こんなヤツのチンポで、感じちゃダメ! ダメダメっ♡ オマンコ、言うこと聞いてっ♡ 勝手にチンポに抱き付かないでえっ♡)

精炎「マンコ気持ちいいなら、素直になっちゃえよ! 素直な方が鷹美は可愛いぞ!」

鷹美「はんんウッ!? うぐうんッ! ハっ、ああ、感じ……なひィ……! チンポなんかにつ、うひゃ♡ 負けなィい……!」

こちらが投げた質問を理解せず、答える余裕さえなくしている鷹美は、自分に言い聞かせるように肉欲を退けようとしている。けれど内腿はビクビクと痙攣を起こし、ゆさゆさと揺れる乳先からもビュルビュルと母乳を噴き上げていた。

精炎「搾乳機がゴボゴボ鳴って鷹美のミルク搾ってる! これ、マジでエロいな! 搾乳されて感じてる鷹美もエロいぞっ!」

鷹美 (おっぱいっ、搾乳されるのもダメよお♡ 母乳が飛び出すと、頭の芯までビリビリ痺れてっ、気持ちよすぎる♡ 何も考えられなくなるう♡)

あまりの快感に、鷹美はビクンビクンと大きく上体を跳ね上げる。同時に、豊満で柔らかい乳房もブルンブルンと揺れ動いた。



「はあッはあっ♡ ああんッ♡ 母さんが、私より先にィっ、んきゅあ♡ 孕んりやらめええッ♡」



麗子「おうんん♡ 精液ほしくへっ、おほオオオ♡ オマンコうねうねさへちやうの♡ おおおっ、チンポ汁うっ、ふほお、孕み汁ううう♡」
腰までくねくねと振り、もっと精を寄越せとばかりに膣肉が蠢動する。それに促されて肉棒をドクドクと跳ね上げ、膣壁にビチャビチャと雄汁をぶつける。

麗子「熱々のせーえきィッ♡ おおおん♡ 子種汁もらっへえっ、へおおッ♡ また妊娠するッ♡ もう一度母親になるのおお♡」
すでに鷹美の親であるというのに、快楽に墮落してしまった麗子さんは娘の前でとんでもないことを恥ずかしげもなく口にしていた。

鷹美「あんん♡ 母さんが先なんへっ、らめよお♡ 私が先につ、ハアハアッ、妊娠させへもらうんから♡ んひああんッ♡」
羨ましそうにこぼしつつも、鷹美もいやらしく下半身をビクビクと踊らせ、軽い絶頂を覚えていた。どろどろの熱い愛液を撒き散らし、膣肉を指に噛み付かせてくる。

麗子「ごめんね鷹美ィ♡ れも母さんっ、おほオ♡ 妊娠しひゃい♡ このおチンポ汁、美味しいのおおッ♡」

Chaltina Ruitgart



体操部に所属する甘えん坊のTcup下級生

シャルティーナ・ルイトガルト

Chaltina Ruitgart [CV:花澤さくら]

身長: 153cm

スリーサイズ: B125 / W55 / H82

コミュニケーションが苦手で、人前ではいつもあがっている状態になってしまう恥ずかしがり屋のサキュバス。リディアという異母姉がいる。ドジや失敗をすると母乳が出てしまう体質が悩み。魔力消費の激しい体質をしているため、精炎にキスで魔力をもらうことを日課としている。

「まあ、本当をいうと次の授業は苦手な数学なので、サボリたかつたんですけれど……えへへ」



制服

サキュバス

水着

部活

裸

裸(淫紋)



「あつ、あつ、あつ……
先輩のおチンポミルクで、
シャルのこと、もっと、ぐろっぐろっ……
んあつ、ああつ、あああああッ……」

シャルティーナ「はふっ、くっ、あああッ！ ああつ……んっ、んぐっ……やあ、おマンコ、びくびくッ……くあつ、あつ、あああああッ♡」

精炎「ヤバい、射精がとまんない！」

シャルの膣内がドロドロになるほどザーメンを注いでもなお、腰の震えは増すばかりで、射精の勢いは衰えない。その勢いをすべて、快感とともに膣の最奥に叩き込む。

シャルティーナ「はあつ、あつ、ああつ……♡らめ、れふっ……ふえんばひっ……そんな、しちゃっ、あつ、あああつ……♡」

シャルの呂律は思いっきり怪しくて、いまにも気を失ってしまいそうなおほど頼りない。そんな彼女の膣奥をここまで激しく攻められるのも、突き上げるたび、彼女が幸せそうな顔をするからだ。

精炎「シャル、気持ちいいか♡」

シャルティーナ「ふあいつ♡ しゅごひ、しゅっごーひっ、気持ちいい、れふっ……♡ せんぶあひ、だあいしゅきいっ……♡」





「あいっ♥ とろっとろの濃厚なミルクが、くひ、いっぱいひろがって……んむんむ、んまあ、おいちいっ……♥」

シャルティーナ「先輩のおチンポ、すっごく、おいひい……♥ この味も、この匂いも、もっと、もっとお……べろ、ぢゅぶ、ぢるるうっ♥」

精炎「イクッ!」

シャルティーナ「ひゃうっ!? 熱いの、びゅくって……んあっ、はあっ、あっ、ああああああっ♥♥ あそこが、ビクラッ♥ って……はんっ、ああっ、先輩のミルク、ちゃんと飲まないとっ……」

ほとんど暴発するような感じで吐き出した精子が、シャルの柔肌を真っ白に染め上げていく。



シャルティーナ「おマンコおつゆも、おっぱいみるくも、いっぱいいっぱい、びゅばあーって……んあっ、ああっ、ああああああああっ……♥♥」

俺と同時にイッたシャルは、全身を激しくぶるるっ震わせたあと、絶頂の余韻を楽しむように目を細める。飛び散る汗と母乳に潮吹きまで加わって、シャル特製の甘い蜜が、シャワーのように降り注いでマジでヤバいッ!

精炎「ああっ……! シャルんなか、すごい熱いっ……! チンポが煮詰まってくみたいだッ」

シャルティーナ「えへー、えへへ……♥ だっていま、私のおマンコには、先輩の濃厚な精子が、はあはあ、たあっぶり、入ってますからあ……えへ、んふふっ♥」

「ふえんぱひのおチンポ、おマンコのいっちばんおくに、ごちゅーん♥ ごちゅーん♥ って……あっ、それ、それ好き、しゅき、だいしゅきっ♥♥」



「やあっ、やあっ……♡
お願い、見ないでっ……
先輩、見ないでください……♡
お漏らしなんて見られたら、
私、恥ずかしすぎて……
あああああ……♡」



精炎「遠慮せずにおしっこしちゃっていいぞっ、シャル！」

シャルティーナ「?!?!?!? セセセ先輩、なんでそれを……って、あひっ!? やあっ♡ ああっ、く、口にしたら、尿意がじゅわわって……ひううっ♡♡ やうっ、だ、だめっ、このまじや……ひぐっ、あああっ♡♡ こんな格好でおしっこなんて、あっ、ああっ、あああっ♡」

精炎「それぞれっ♪」

シャルティーナ「んやあっ!? ちょっと、せんばひっ、ばいぶ、ぐりって、し、ちやっ……ん ああっ♡ らめっ、いく、いぐうっ……! ああっ、あああああああっ♡♡♡ ンあ あアッ♡♡ あっ、あアッ♡ おひっこ、おひっこがああ……あああっ、ああっ、ふああああっ……♡♡」



精炎「いいイキっぷりだったぞ、シャル。いまのイキっぷりに、測定器もスタンディングオーバーンだ」

シャルティーナ「測定器、って……あ、ああ、ああああああ……♡先輩のおチンポ、ホントに、さっきよりおっきくっ……ああ、ああ……♡」

おっぱいイキでさらに愛液を滲ませた割れ目を擦りつけることで、シャルがチンポの状態をチェックする。シャルほどの大きなおっぱいと、体勢次第では自分の股間を見ることも難しい。だからこそテクニックだ。

精炎「シャルのイキっぷりがエロかわすぎて、測定器のカリはぶっくり膨らんで、亀頭なんてパンパンだぞ」

シャルティーナ「パンパンの亀頭に、ぶっくりのカリ……♡ ああ、すごい、すごいっ……♡ 想像しただけで、おマンコが、熱くっ……ふう、ふう、はあっ♡」

見えないシャルに代わってチンポの状態を教えると、彼女はそれだけで火照った息を吐きながら身悶える。

「いまだって、お腹の奥が、すごいうずいて……
はあ、ああっ……♡先輩、お願いします、もっと
もっと、私のおっぱい測定してくださいっ……♡」





「ふはっ、ふはあっ♡ 先輩のおチンポ、ガッチガチにあふくてっ……んま、れろっ……やはっ、ふああっ♡ すっごい濃いのが出そうれふっ……♡」

膣口はもちろんアナルまでひくついて、あのシャルのマンコがこんなに蠱惑的かと思うと、俺は、俺はッ……!!

シャルティーナ「んふっ、ふえんばい、イキそーなんでふねっ? えへっ、いいれふよっ? わらひのおくちに、いっぱい、らしてくらひやいっ♡」

精炎「な、なんだとっ……!? シャル、俺がイキそうなの、わかるのかっ?」

シャルティーナ「ふあい♡ ふえんばいのおチンポが、こんなふうに、びくびくうってなってるときは……あむっ、ちゅっ、イキそうになってる、しょーこれふっ♡」

チンポをくわえたまま微笑んだシャルは、おっぱいをぎゅぎゅっと寄せながら、さらにチンポにむしゃぶりつく。

「あんっ♡ もう、ダメでちゅよ? ママのミルク、お口からこぼしてっ……ちやーんとあーんして、ぜーんぶ、ごっくんしてくだちやいねー?」

シャルティーナ「バキバキに勃起したおチンポ……はあはあ、いつもの先輩のおチンポとおんなじぐらい、ぶっとくて、硬くて……ああ、ああ、あああ♡ やあっ、らめ、らめえっ……♡ こんなおチンポにぎにぎしてたら、ママまでっ……はあはあっ、ああっ、ママまで一緒に、イッちやいまちゅううう♡」甘ったるい吐息を吐き出すシャルの顔は完全にとろけて、口の端から垂れたよだれが、だらしなく垂れる。

精炎「ママ、イキたい? イキたいの?」

シャルティーナ「んっ♡ お願い、ボクちゃんっ。ママもいっしょにっ、おチンポと一緒にイッていーいっ? どびゅどびゅ射精するおチンポと一緒に、いつもみたいに、おっぱいミルク、びゅーびゅーしてもいーいっ?」





精炎「シャル、シャルっ……! シャルのマンコ、すっごいすっごい、気持ちいいぞっ、最高だぞっ!」

シャルティーナ「せんばいのおチンポだって、しゅっごいしゅっごいっ……くあっ、くああっ♥ らめっ、膣内、そんなにぐぼぐぼかきまぜちゃっ……やあ、あああッ♥」

精炎「チンポで掻き混ぜずにはいられないぐらい、シャルのマンコはすっごいんだっ……!!」

チンポに血が集まりすぎたせいなのか、貧血みたいにクラクラする頭で、バカみたいにひたすら腰を振る。そのシンプルな動きが、滅茶苦茶に気持ちいい。

シャルティーナ「きゃふうッ♥ ふおっ、おっ、んおおうッ♥ おチンポくりゅっ♥ いっちばんおぐに、またっ……しきゅーいっばい、せんばいおチンポお♥ んおおっ、おふっ、おああうっ♥ ふぐうっ、ふあんッ、ひくっ、んあああッ♥ あふっ、ふああっ、んあうっ、んあっ、んあああうっ♥」

ヒダ自体が溶けたロウソクのように絡みついてくる膣内は、形を変えながらチンポを包み込んでいく。身体が覚えるなんていうけど、まさしくそれで、シャルのマンコは俺のチンポの形を覚えようとしていた。

「んひっ、ふにゃああッ♥♥ びゅーびゅーきたああっ♥
せーし、せーしせーしい♥ しきゅーに、びゆるびゆるう……
んふっ、ふうううっ♥♥」





「ああああっ♥ 私もっ、私も先輩のおチンポ、大好きですっ♥♥ だからもっ、もっといっぱい、ママよりたくさん、おマンコ犯してくださいっ♥」

ライラ「ひゃぐッ、あああッ♥ おマンコいっぱい、せーえきどぶどぶ……ふあッ、んあうッ♥♥ 濃いっ、奥まで届いてっ……やあんっ、孕むっ、孕んじゃうっ♥ 誕生日プレゼントに子種で、赤ちゃん孕んじゃうのおおっ♥♥」

奥まで押し込んだ龟头から、子宮目掛けて精子を放つ。悦びに震えるライラさんの膣の締めりは凄まじく、押し込んだチンポが、じりっ、じりっ押し戻される。チンポを一気に引き抜いて、俺を待ってるシャルの膣内に押し込む。

シャルティーナ「ひぐッ、うきゅううッ♥ びゅくびゅくおチンポ、ぐっぽりハマって……ふあうッ、子宮とキス、いっぱい、ちゅちゅっしてっ……んあッ、ああッ♥」

ライラさんの膣口からあふれるほど射精してもなお射精を続ける精子が、シャルのマンコも満たしていく。

ライラ「ああ……♥ シャルちゃんのおマンコも、彼のザーメンでたぶたぶになって……ほら、見て？ わたしたちのおマンコ、お揃いよ？ お揃いっ……♥♥」

シャルティーナ「うんっ……♥ 先輩の子種で、種付けられてっ……わらひのおマンコも、ママとおそろいに、なっぴやったあ……♥♥」



魔法銃射撃部所属の凛々しいRcupダークエルフ

キュンキュン・オ オルガナイト

Kyunkyun na Olganite [CV: 綾野莉音]

身長: 170cm

スリーサイズ: B123 / W59 / H91

「お前のは度が過ぎている！
いや、サキュバスの的には好ましいとしても、
私の理想と全くの逆！認めない！」

オルガナイト族の族長の娘。種族的には犬猿の仲だが、ハイエルフのエルゼとは睦まじい幼なじみ。ライバル関係でもあり、精炎を巡ってはヤキモチ合戦を繰り広げている。はしたないことを苦手としていて発育のいいお尻が悩みだが、強い子孫を残したいので子作りには興味津々！

FACE COLLECTION



サキュバス

部活

裸(淫紋)

制服

水着

裸



「くっ、そうだ。オルガナイト家の娘として……こんな卑怯なバックアタックに屈するわけにはいかないんだあっ♡」

キュンキュン「う、受け入れられるかっ！　こんにゃ、突然ぶち込んでっ！　んはあっ♡　初めてのエッチが、尻でだなんて……んっ♡」

精炎「そうか、初めてのキスもアナルセックスも俺がもらったのか……嬉しいぞ。ちゃんと気持ち良くしてやらないとなっ！」

キュンキュン「にゃ、にゃんで、そう、なる……んん、ああ、ああ、ああっ、んん、そうやって、気遣うなら抜いてくれっ!!　今すぐにつ!!」

キュンキュンが悶える度にアナルの感触がチンポを責め立てる。

精炎「初めてで戸惑うのはわかるが、断る！　それに本気でぶつかり合えばわかり合えるって言ったのは、キュンキュンだろうっ」

キュンキュン「それはあ、あん、競技の話であって、んんっ♡　尻でパコパコすることじゃ……♡　ああもう、腰を止めろおっ♡」

精炎「そんなの無理に決まってる。サキュバスがアナルをほじられて感じているのにやめるとか、むしろ無礼だろうっ」

キュンキュン「そ、そうだけどお……ああ、一度挿れたおチンポを、自分から抜いて欲しいなんて、サキュバスの名折れだけれどっ♡　うう、うう……んっ」





「あふ……ん、んふう、きてええ……
ああ、子宮にもディープキスしれええ♡

そのまま精液らしてええっ♡♡」



これが、子種を求め乱れるキュンキュンの姿……！ ああ、
こんなの膣内出しするしかないっ！ この膣内に、全部注ぎ
込みたいっ！！

キュンキュン「ああ、んふあ……はあはあ、また目があっちゃ
っらあ♡ だらしない顔でチンポ受け入れてる顔見られ放題
いっ♡ でも、でも、あああ、おマンコ気持ちいいのとまらない
のお♡ もっとしてくれえ♡ 子宮ノックしてええ♡」

エルゼ「あのキュンキュンが……ヨダレ垂らして、めちゃくち
や気持ちよさそうにアへってる……ふふ♡」

気が付けば、エルゼだけじゃなく、クラスメイト達も集まって、
キュンキュンの初めて見せる痴態に見入っていた。誇り高い
ダークエルフ族の娘が、初めて見せた卑猥な表情に、みんな
戸惑いながらも夢中になっているようだ。

キュンキュン「んふあ、ああ、みりゅなああ♡ おマンコ、ジ
ュボジュボされて、メスの悦び教え込まされてるの、みりゅん
じゃないっ♡」





「はあ……ん♥ もっとノックしてえ♥
子宮起こしてっ♥ 今から妊娠させるっ
て突きまくってくれえっ♥」

キyunキyun「んほお、あ、おおっ♥ んあ、おおおっ♥♥♥♥ 出てりゅう
♥♥ 私が一番奥に子種びゅーびゅー♥ きてりゅうう♥」
これ以上ないくらい腰を押し付け、一ミリの隙間も許さないよう密着して、白濁
を注ぎ込んでいく。ふおおお、おマンコがスゴイ、吸いついてくるっ……脚を掴
んで引き寄せる必要なんてないんじゃないか、コレっ。
キyunキyun「んんお♥ まら出してる♥ 射精長いっ。ふお♥ らめえ、
子種漏れちゃうからあ♥♥」



「はあ、はあ……セックスっれ……こん
なに、汁まみれになるのかあ……♥
しらにやかった……♥」

キyunキyun「ひう……んん、んぐ、ああ♥ らめめめ、イカされる♥
もうイキたくにやいの♥ いきゅ、いきゅうううううッ♥」
戸惑うおマンコに精液を注ぎ込んでいく。あっという間に膈内から精液
が溢れ出して逆流してくる。零れているのもお構いなしに腰を押し付け、
子宮を龟头でプレスしたまま、最後の一滴まで注ぎ込んでいく。
キyunキyun「ふあ、ああー! あーっ♥ 新しい精液で、またいっぱい
になってる♥ ああ、まだ中れびゅーびゅー、でてりゅっ♥ ん、ん
ん、あ、ああ、だめ♥ 容赦なしの射精でおマンコオーバーキルされり
ゅうう……あ、ああ、あああ、んん♥」





精炎「ふおおお、突然のパキューム……っ！ そんなに精液が欲しかったのか？」
キュンキュン「なにを……んん、んぢゅるっ。挨拶がしやすいように、綺麗に、んぢゅる、掃除している、ただだ……んん、じゅりゅっ」
掃除とは思えないほど、丁寧吸ってる気がするんですが……。ああ、そこ、中まで全部お願いしますっ！ もっと激しく吸って……おおおっ！
キュンキュン「ん、んふう。じゅりゅ、んぶぶ……んぐ♥ んん、ん……ごくんっ♥」
精炎「もしかしてキュンキュン……飲んだのか？ それも、掃除ってやつか？」
キュンキュン「ああ……こんなどろり超濃厚な精液、その辺に捨てるわけにも行かないしな……多分、ティッシュでくんでも匂い立って、並のサキュバスなら狂ってる」

「よし、このまま、んん、じゅりゅ、出させてやる。だから……んん、また、いっぱい飲ませろっ♥ さっきより少なかったら、しょうちしないんだからあ♥」



キュンキュン「ん、んふああ、ああ、子宮口♥ チン先でグリグリされりゅのしゅきらあっ♥ もっろしてくれえっ♥」
精炎「ここまで頑張ったご褒美だ、存分に味わえっ!!」
キュンキュン「んふう♥ チンポしゅごいのおっ♥ きてりゅ、子作り子宮キスしちゃうてりゅ♥♥」
おおお、なんて吸い付きっ。まるで、子宮口から求められてるみたいだっ。ただでさえ暴発しそうなのに、こうも熱烈に押し付けられては……そう長くは持たないぞ！
精炎「ああ、チンポが全部気持ちいいっ！ やばい、止まらない……！ これが、サキュバスマンコ……!! 最高だっ！」
キュンキュン「ああ、お前のチンポもしゅごいからあ♥ こんなに気持ちいいチンポ、絶対離したくにあいいっ♥」

「あっはあぁッ♥ 子宮にたっぷり精子吐き出しれっ、孕ませてくれええッッ♥♥」





「精液をべっとりと
お尻にかけて……
まだでている♡
クッ♡ 授業中なのに
どれだけ
射精しているんだっ、
変態めッ!!」

キュンキュン「ま……待て♡ 今は授業中でっ、んん、んはあ、ああ、ダメだッ♡ さすがに挿入まではやり過ぎ……ン!!? んふやああああああっ!!? んひ、ああ、尻の穴にチンポ入ってきたああ……ンン!!」

精炎「声大きすぎっ」

キュンキュン「はあー、はあーっ、そんなことを言われてもっ、ああ、尻が熱いい♡ ふあ、あああっ……っ!!」

許容範囲を超えたのか、キュンキュンのエッチな喘ぎ声が大きく響くと、沢山のクラスメイト達がこちらを振り返った。

キュンキュン「ウソだろ、もっと奥に入っで……くひいい♡ やめろお、みんなの前で私のアナルをこじ開けるなあ♡ ンっ!!」

精炎「でも、前よりはスムーズで、チンポを奥まで飲み込んでいくぞっ」

キュンキュン「そ、そんなことはない……んん、今回は感度増の魔法なんて、かかってないからなッ」





「そうじゃなくて……今日だけじゃなく
……これからも毎日いっぱい子作りして
くれっ♡ 赤ちゃんがいっぱい
ほしいんだッ♡」

キュンキュン「はあッ♡ 今チンポがグリッて刺さられるところに、お前の
精液、いっぱい搾り出してえッ♡」

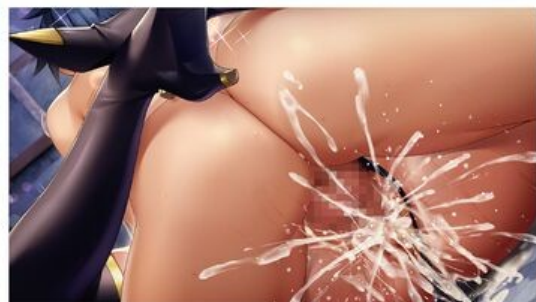
精炎「あ、ああ、もう限界だっ!」

キュンキュン「んん! イキまくりのドスケベマンコレっ、赤ちゃん孕みますうう
うッ♡♡ くおおおおッ♡ おおおッ、はへッ♡ はへえ……あッ♡
ああ……んんッ♡♡」

絡みついている脚もさることながら、おマンコがコレまでで一際激しくしゃぶりつ
いてくる。ああ、射精が長い、止まらない……これ、絶対全部搾り取られてる
っ。

キュンキュン「んう♡ ふああ、中でチンポ跳ねれりゅのお♡ んん、んふッ
♡ 気持ちよしゅぎりゅう……♡」

もはや、射精の反動で跳ねるチンポですら絶頂スイッチになってしまってるみ
たいで、イキまくりじゃないか。





「あ、あ、あ、あ……お母様のことをもっと
気持ちよくしてあげてえっ♡一緒に気持ちよく
なりたいのお、はあ、はあ、ああ、ンンン♡」

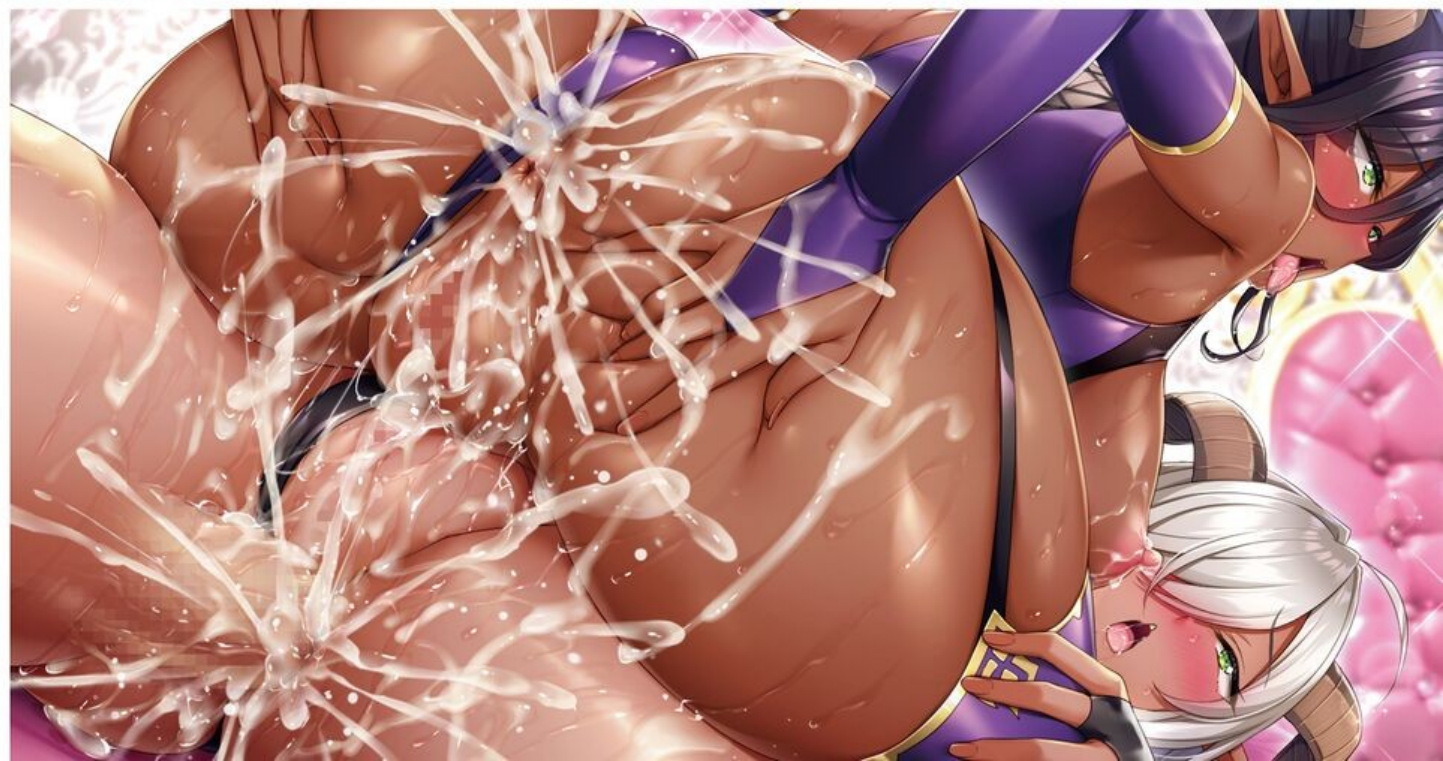
アンアン「ああああ♡ アナルセックスも最高れすのお
おっ♡ ん、んふ、あう、んああ、んはあ……っ♡♡」
キュンキュン「ひう……ン♡ アナルいいっ♡ ん
ほお♡ お尻が壊れちゃう♡ んはあ、ああっ!!」
母娘のアナルを交互に行き来する。何度も何度も二人の
尻穴を交互に貫く。マンコの感触も違っていたが、肛門
や直腸の感触も違うものなんだな。母娘なのに面白い。

アンアン「ん、んひい……ひああ、あ、ああ♡ あ……
ああ、ひやうんっ! お、おひりの穴、ひらきっぱなし
い♡」

族長の威厳はどこへやら、アンアンさんはアナルを俺に
支配されて、だらしくアへったままになっている。

キュンキュン「ああああ♡ 捻じられると裂けそうで
ちょっと怖い、でも、ああっ、でも、それがいいの……
♡ はあ、ああっ♡」

キュンキュンも負けじと淫らな声を張り上げる。



Elze Eve Dianta

マジックアーチェリー部所属の
あほカワイイPcupハイエルフ



エルゼ・イヴ・ ディアンタ

Elze Eve Dianta [CV: 風鈴みずす]

身長: 157cm

スリーサイズ: B117 / W57 / H87

Pcup

「子作りの仕方くらい知ってる
わよ、バカにしないでよね！
いっぱいキスするとドラゴンが
くれるんだから！」

ディアンタ族の族長の娘。ダークエルフのクンクンとは幼なじみであり、ライバル。そのため、お互いが好意を持っている精炎のことでよく喧嘩をしている。手料理や裁縫が得意で女子力が高いものの性知識は未熟で、いざ子作りを実践しようとなると羞恥心に襲われ固まることが多い。



FACE COLLECTION



制服

サキュバス

水着

部活

裸

裸(淫紋)



これ以上こぼれるのは勿体ないとばかりに、生白い喉をうごうごとと蠢かせて汚い汁を飲み込んでいく。普通的女子なら嫌悪する精汁を、さもおいしいがごとくゴクゴクと喉を鳴らして嚥下していた。

エルゼ「さっきのお汁よりっ、断然濃ひ♡ ぐっん♡ 精液っ、甘くへ、しょっぱくへっ、やらしい味れ、んんっ、止まらにやひ♡ んふっ、んん♡ ちゅぶちゅぶ♡」

精炎「くあ……ッ!? 出してるときにしごいたらッ! また出るッ!!」

エルゼ「あひゅ!? んぐんん♡ まひや精液れたア♡ んちゅうっ、ジュルジュル♡ ぐちゅん、んん♡」

射精の勢いがおさまる頃合いに乳と口の強い奉仕を受け、もう一度ドブドブと汚汁を噴き出させてしまう。精飲して高揚が増しているエルゼは再び口内で精を受け止め、低い悲鳴を上げながら下半身をくねらせていた。

「ゴクん……♡ んっく、んんウ♡ んっば……ハアハアッ♡
ダーリンのチンポ汁う、んんあ、しゅごい♡ 頭がくらくらしちゃう♡」

エルゼ「チンポちゅよいのすきゅい♡ 強いチンポおっ♡ マンコを壊しゅくらいずんずんくりゅチンポっ、ダーリンチンポ大しゅきゅい♡」

発情した声色で淫猥な言葉を連発し、自らも尻たぶをくいっくいと振り回す。粘液でぐちゃぐちゃになっている肉道は凄まじい膣圧がかかっており、陰茎を出し入れするたびにギュポッギュポッといやらしい音が鳴っていた。

精炎「マンコがグチョグチョいいまくって、くおっ、たまらない……ッ!」

エルゼ「わらしもおっ♡ マンコからどしゅけべな音おっ、はへえっ、チンポれ鳴らしやれへたまらにやひッ♡ きゃああんッ♡♡」

再び悲鳴を上げたエルゼが、ビクビクッと背中を波立たせて快楽の頂きに達する。淫魔としては情けない、口を半開きにしてよだれまでこぼしたアクメ顔を披露していた。

「タマタマれちゅくっへりゅザーメンっ、
ぜーんぶマンコにもらう♡ ダーリン
のチンポ汁はっ、全部わらしのものお♡」



イヤイヤと首を振りながらも、エルゼは断続的にアクメに襲われ、何度も絶頂に身を委ねてしまう。

エルゼ「ふあっ、ふあああっ、ンっ……はああん♥ も、もっと、いっぱい吸ってえ、ダーリン♥ ンっ……はううっ……♥」

恍惚の表情で熱い吐息を漏らし、甘い声でおねだりしてくるエルゼ。その通りにチュウチュウ吸いまくってやると、ガクガクと痙攣してまたも絶頂を迎え入れる。

エルゼ「ああん、イッチャうっ！ イクっ♥ またイクのっ……敏感乳首ねちっこ責められて、イキまくっひやううっ♥♥ あああああん♥♥」

何度もピクンピクンと身体を跳ね上げつつ、喘ぎ声もどんどん大きくなっていく。恥ずかしさよりも気持ちよさが上回ってきたようだ。



「はひっ、あうっ！ ンああっ、ミルク噴いてるうっ！ うっ、はひっ！ あああっ！ 恥ずかしいっ♥ ンあっ、ああうううっ♥」



エルゼ「はあ……っ♥ ダーリン、好き♥ 私、ほんとにダーリンのこと、大好きだよ♥ ダーリンの精液で、ザーメンで……孕みたいの♥ ……ちゅ♥」

ズリズリズリッと肉体を擦り付けながら顔を近付けたエルゼが口付けしてくる。

精炎「チンポを放さないなんて……マジで孕む気満々だなっ！」

エルゼ「そうらよ♥ んちゅっ、ちゅふ♥ ダーリンじゃなきゃ、やらもん♥ んはっ、ハァ♥ ダーリンに孕ませへほしイの♥ ちゅむむっ」

唇を合わせ、擦り付け、吸い付いて、ハイエルフ淫魔が淫猥な懇願をしていく。エルゼのような美少女に妊娠させてほしいとねだられ、肉茎はより血を吸い上げて充血し、硬く、さらには大きくなった。

エルゼ「はちゅっ、んちゅう♥ 孕むためにイ、んん♥ ザーメン、マンコの奥にちょーらい♥ チンポからビュウッて、子宮の中いっぱい流し込んれっ♥」

「ひゃああん♥ 射精チンポっ、すっごいビュクビュクしてるっ♥ はっ、はあ♥ 私も興奮して……ミルク出ちゃうっ、ダーリン♥ ダーリンっ♥」



「きやうあッ♡ ああん♡
がちがちのチンポがつ、ひああ♡
マンコをゴリゴリってえ♡
中、挟れちゃうウ♡」

蠢動して狭まる膣道をぐじゅぐじゅと肉棒でこね回し、子宮口をドスドスと突き回す。

エルゼ「あひゃ♡ ああ♡ イひっ、イっちゃ♡ いやああ♡ 子宮ちゅかれへっ、あんなラッ♡」

絶頂寸前で掠れた声を放つエルゼは、呂律まで回らなくなっていた。

精炎「イカせるッ！ 子宮イキさせるっ！ 子宮にザーメン浴びせるからなッ！」

エルゼ「ひいひいッ!? チンポがジュポッへっ、ほひひい♡ 子宮にしゃしゃっでりゅうッ♡ ほんひよに子宮イキシひやう♡ ダーリンもっ、あひゃあ♡ ダーリンもイッへえ♡ 子宮にせーえきちよーらひ♡ 赤ちゃんのお部屋に赤ちゃんの素お、ドビュドビュらしへえ♡」

精炎「わかってる……ッ！ チンポを子宮に差し込んだまま……ふんんッ!!」

腰を捻り、限界まで膨張した亀頭で子宮の肉口をグリンッと挟り立てた。





「ああっ、ああー♡ マンコがいつぱひの精液
れっ、へああっ、重くなっへりゅう♡ 赤ち
やんの素お、溜まっへきへりゅう……っ♡」

エルゼ「あひゃあああ♡ マンコからビュビュっひえ、お汁が止
まりやなひイイっ♡ ひひゃあっ、お漏らしめえええ♡」

精炎「それはお漏らしじゃなくて潮噴きだよ。女の子が気持ちよ
くなりまくったときに出るんだ!」

エルゼ「んひゃあああ♡ れもおっ、潮噴きもっ、みんなに見ら
れへ恥ずかしいのぉ♡ 潮噴きしながらイクのっ、いひゃああ
あ♡」

羞恥心に身を焦がしつつも、エルゼは淫楽に濡れた悲鳴を何
度も上げている。机にぐいぐいと押し付けている乳房の先端か
らは、ビュルビュルと母乳まで噴き上げていた。

精炎「潮噴き絶頂だけでなく射乳絶頂まで! エルゼはほん
と、セックス優秀者だな!」

エルゼ「らめらめ♡ ミルクまれ出しへっ、恥じゆかしすぎへ
おかひくなっひゃうよ♡ ふええええっ♡」

恥じらいが興奮に変わって快楽を倍増させるらしく、エルゼは
繰り返し頭をガクガクッと反らして上り詰める。乳先から飛び出
た白濁液は机だけでなく、床まで汚していく。母乳と精臭が一
気に濃度を上げ、鼻腔の奥から進入して脳の芯を直撃した。





「そんならっ、ハアハア！ らめえ！ ダーリンに
孕ませへもらうのはっ、あふう、私が先なんれすう♡」

エルゼ「あひゃあああ♡ 約束のザー
メンらあ♡ 赤ちゃんの素おッ、おひん
♡ 子宮にいつふあいそしょがれりゅう
♡ 子宮が重くなっえ、ぎもぢイっ♡
♡」

ヒクつかせていた乳頭からビュッビュッ
と母乳を噴出させ、己の肌を汚すよう
に撒き散らす。達しているエルゼはその
僅かな刺激でさえも快感であるかのよう
に、内腿までビクビクと痙攣させていた。

ヘルロゼッタ「おふん♡ まだあ♡
私はまだ足りなひ♡ ほおっ♡ はあ
♡ もっと子宮イキ頂戴♡ 孕ませて
もいいひ♡」

精炎「神様を孕ませてもいいとかっ、神
対応過ぎるッ！」

淫魔神にねだられて興奮し、再び女神
の膣奥に肉槍を突き込んで射精する。

ヘルロゼッタ「おほほん♡ これこれ
え♡ ほおおッ、ザーメンぶつけられへ
っ、おおおッ♡ 子宮が熱くなりゅ感
覚っ、子宮が痺れりゅイクううッ♡
♡」

子宮口に食い込ませてぶっぽぶっぽと
音を立てるがごとく中に流し込む。ヘル
ロゼッタ神は尻尾をピンピンに立て、
尻たぶをこちらに押し付けながら愉悦
の極みに至っていた。





「ダーリンのあちゅいザーメンがあっ♡
いっぱい来てりゅよおっ♡ ビチャビチャ
っていっぱいいい♡♡♡♡♡ ひゃああああっ、
射精終わらない♡♡♡」

エルゼの蜜壺に突き刺した男根が、たっぷりと熱い精を吐き出した。

エルゼ「ひいっ、にやからしい♡ いっ♡ いっ♡
♡ あああっ、イクうっ！ くはあっ、イクっ！ はああ
あああっ、イクうううっ♡♡」

膣内が猛烈な勢いで締め、剛直を強く圧迫してくる。

エルゼ「んっ、ひああああん♡ ダーリンにいっぱい中
出しされて、あたしイク♡ き、気持ちよしゅぎるううあ
あっ♡♡」

さっきのオナニーの時よりもずっと深い絶頂に達するエルゼ。嬉しそうに声をあげながら、身体をガクガクと激しく痙攣させている。

精炎「エ、エルゼっ、そんなに動かれたらっ……！」

射精している最中でもエルゼはお構いなしに腰を振り続ける。しっかりと密着しているので抜けることはないが、媚粘膜でずっと扱かれ続けているため、射精が終わらない。

エルゼ「ああっ♡ にやかにいっぱい出されてるうっ♡
あはあっ♡ あはあああっ♡ ダーリンのしえいえきあち
ゅいよおっ♡♡♡♡ アツアツのザーメンが子宮まで入ってき
てるよおっ♡ 溜まってきてりゅっ♡ 子宮にいいっ♡
あっ、あんっ、イクっ！ くうんっ♡♡」

エルゼはこちらの大量射精に負けないぐらいの潮や母乳を噴いている。もうシーツがビショビショだ。



エルゼ「ママったら、すっかりダーリンのおチンポがお気に入りになっちゃってるぅ……。ぶうぶう」
ジト目で母親を見つめるエルゼ。怒っているというよりは、すねている。ほったたをプーッと膨らませているのが可愛い。可愛すぎて死にそう。

ファビオラ「はあはあっ、おチンポにご奉仕しながら自分でおマンコイジってたのお♥ だから準備万端だったのよ♥ あふっ、あ、ンン、あああっ♥」

確かにファビオラさんの膣内は愛液でスルスルにぬめっていた。チンポが溺れてしまいそうなほどだ。

ファビオラ「ンふっ♥ あっ、あふうっ♥ ンっ、ンン♥ ああっ、もう、セックスが久しぶりすぎてえ……。♥ つい、がつついちゃったわあ♥ はふうんっ♥」

エルゼ「むう……。それはわかってるけどお……。ンむう、ダーリンのがズッポリとママの中にハマってるぅ……。気持ちよさそう……。ぶうぶう」
まだヤキモチをやいているエルゼ。これはいかん、そろそろ相手をしてやらないと根に持たれそう。

ファビオラ「はいはい、エルちゃん、ごめんなさいね♪ ママがエルちゃんのこと構ってあげるから、ご機嫌直して頂戴♪ ほらほら、ちゅっちゅっ♥」

「もうっ！ 後でエルゼのことも気持ちよくしてくれなきゃダメなんだからねっ。ぷんぷん！」



Celestia Laciell

閻剣部に所属するドMのQcup聖騎士

セレスティア・ラシエール

Celestia Laciell [CV: 叶一華]

身長: 162cm

スリーサイズ: B120 / W57 / H87

Q-cup

「はあはあ、嘘をつくなう！
貴様のその肉欲に又ラつきたいやらしい瞳！
わ、私を、辱める方法を考えたりしているに違いないッ！」

パラディン属性を代々受け継ぐ名家出身の同級生。騎士道精神が強く、毎日剣術の鍛錬に励んでいて、負けず嫌いでまっすぐな性格。ただ、本能的に不埒な行為を妄想してしまうことが多く、エッチな話やセクハラ行為には新鮮な反応を示す。家事手伝いといった花嫁スキルは皆無。



FACE COLLECTION



制服

サキュバス

水着

部活

裸

裸 (淫紋)



セレスティア「ぶちゅっ、ちゅく……ンンっ、いやあ……ンちゅっ、るちゅ、じゅるう、ンじゅる……ああっ、ミ、ミルクが、くひのなかにたくしゅん……♥　ンあうっ、じ、自分れ、自分の、母乳を飲まじられるなんれっ、くうっ……ン、べろ、べろ……ンンっ!」

最初は戸惑いながら舐めているだけだったのが、次第に興奮してきたのか強めに吸るようになった。

精炎「美味そうだな。もっと飲んで味わえよ!」

乳房をギューギューと手でつかんで搾り、母乳をセレスの口内に流し込んでやる。

セレスティア「ひやめろお……ン、ンぐぶっ、じゅるるるっ、ンぷうっ、ああっ、濃いミルクの味い……おぶっ、ちゅむ、ちゅる、ちゅべろお……」

(うう……こんなことさせられるなんて思わなかった……ひどい屈辱だけど……ううっ、あああああっ、こ、興奮してしまうっ♥♥)



セレスティア「あはああっ!　あうっ!　ひやあああっ!　奥によほうチンポがぶつかってりゅ!　ああっ!　あうっ♥　ひやああン!!」

セレスの身体が俺の上で力強く上下する。その膣壁で肉棒全体が擦り上げられている感覚だ。セレスが深く腰を落としてくるたびに子宮口に先端がぶち当たり、頭の中が真っ白に染まる。

セレスティア「あぐふううっ!　ああっ!　はう、あっ!　ああうっ、ンっ♥　し、子宮にめり込むほどのとこまれ届いてりゅ……はああン♥♥」

精炎「子宮にチンポ当たるの気持ちいいか?」

セレスティア「きもひいいれしゅっ♥　もっろ!　あっ、あっあっ、あっ♥　もっろもっろ激しくしてえっ!　おひいいいっ♥♥」

「もっとお!　もっと、確実に孕ましてくらしゅああいっ♥♥　精子たくしゅんもりやって妊娠したいれしゅうううっ♥　あひやああああっ♥♥」



「ふ、ふううっ……ち、違うっ、
ちぎやううっ！ はう、あっ！ くっ、
わ、私への侮辱は、万死に値しゆるっ！
ああん♡♡」



爆乳を絞り上げるように巻き付いている触手。ギュウギュウと締め付けているので、少し母乳が滲んでいる。

精炎「おっぱいからミルクが滴ってるぞ」

セレスティア「くっ……い、言うなっ！ お、女の胸を雑に扱いおっへ……卑劣なっ！ ごぐっ、むごっ、ごぎゅっ、えぶっ……じゅぶばぼっ！」

嫌がってもおっぱいを隠すことはできない。触手に乳房や乳首をいように弄ばれて喘ぐだけである。マンコやアナルに伸びた触手は細めだが、その分、繊細な動きをしている。彼女にとっては、指先で触れられているような感触のはずだ。

セレスティア「ぐぶっ、むおっ、ぼぼぼっ……ろ、ろんら拷問をひやれようと……わらひはれたいに屈しないからら！ ぐえっ、おぶっ、ほぼぼっ……」

身体中を責められながらも、まだ強気なことを言い放つセレス。ただのド変態のくせにプライドは山よりも高い。だが、そこがいい。





精炎「ふふっ、お仕置きアナルで悦んじゃって
るのか？ やっぱセレスはド変態パラディン
なんだっ」





セレスティア「ひゃあぁんっ、熱いの来てりゅっ!? うあぁっ、あっ、た、たくしゃん、中出しされてりゅうっ♡ ひゃひいいっ♡♡」

セレスは体内に注ぎ込まれた精液を嬉しそうに吸い上げる。サキュバスなので本能には逆らえない……って、たぶん逆らう気もないと思う。

セレスティア「あひいっ、イク♡ イくらっ♡ あちゅあちゅのドロドロザーメン、にやからしされてイっひやうううっ♡♡」

イキながら母乳を撒き散らし、呂律の回らなくなった口調で喘ぎまくるセレス。だらしなく緩んだ表情で熱い吐息をこぼす。

セレスティア「ふうっ……ンンんっ……」

「ひはああぁっ、らめらめえっ、頭おかひくなりゅうっ、あひっ、ああぁあっ! チンポ気持ちよすぎれえ、パラディン失格になりゅううっ♡♡」

喉を鳴らして精液を飲み干しながら、セレスはブルブルと身体を痙攣させた。イッている。飲みながらイッている。

セレスティア「くふう、イクううん♡ ンっ♡ あっ♡ ぐう♡ ンくううううっ♡♡ ンうっ、イクうっ♡ イクっ♡ ンあっ、あっあっ♡ ごきゅっごきゅっ♡ ンン♡ くぶふう〜〜っ♡♡」
ガクガクと震えながら絶頂に達するセレスだったが、イキながらもまだ精液を飲むことをやめない。

精炎「イキながらしゃぶり続けるとはっ……なんてヤラレ根性! 一流のDMパラディンだな!!」

セレスティア「ごきゅっごきゅっ♡ ぶあ……はへへ♡ 飲みひれなひい……♡ ンぶちゅ、ちゅるちゅる……ちゅっ♡ ちゅうう……♡」

絶頂に蕩けただらしない顔で、セレスはなおもチンポを吸った。

「ンひやううっ♡ 乳首、しゃいこうに気持ちいい♡ ンむう、じゅぷぷ、じゅぽっ♡ ミルクれると、頭がふわふわしてきひやうう♡♡」





「はあっ、はあっ、
ご主人しゃまのじゃーめん、
ろっれもきもひいれしゅう……
はあ……はあ……♡」

セレスティア「やっ♡ やらやらあっ♡ 貴様のチンポじゃなきや、やなのおおっ♡ あっはあッ♡ 一生このチンポに屈服すりゅうっ♡♡」

精炎「……ッ!？」

どでかい不意打ち喰らいましたよコレ!? いや、あの、このひと、上級職のパラディンですよ。かーなー強い女騎士がそんなこと言っちゃっていいの!? ……っっていうか、ダメ、俺、一気に射精欲がこみ上げてきちゃいましたよ!

セレスティア「きひやまのチンポがらいしゅきらっ♡ ずっとハメていたい♡ はひいひいッ! あはあっ♡」

精炎「うっ!」

セレスティア「んはあっ、きへきへっ、きへえ♡ きしゃまの性奴隷セレスティアのマンコにどぶどぶ射精しれええッ♡♡♡」





「はうんっ♡ ふ、深いところ、潜り込んできてるっ……んっ、んあっ！ ああっ……んふうっ……はあ♡♡」

セレスが全身を跳ねさせている。絶頂に打ち震えて波打つ肢体がたまらなく色っぽい。

セレスティア「ふああああああっ♡♡ あちゅいのたくしやん入ってりゅうううっ♡♡♡ 中出し気持ちよしゆぎてイっひやうっ♡ あっ、ああっ！ イクうっ♡ イクううっ♡♡」

掠れた声で喘ぎながら、セレスは何度も気持ちよさそうに絶頂を迎えた。サキュバスモードでは感度が倍増している。しかもエロ魔導書の効果もある。射精した肉棒に追い打ちをかけるようにきつく締め付けてくるセレスのマンコ。最強っ、このマンコ最強すぎいいっ！

精炎（おおおっ……こ、これがっ、サキュバスとしてのセレスの本気……ッッ!!）

サキュバスの激しい膣ヒダの蠢きに、射精がまったく止まらない。ひたすら、延々と搾り取られてしまう。

セレスティア「ふひやああ……ま、まらら！ まら余韻に浸るのは早いっ……うふ♡ うふふ♡」



「あああつ!? やあんっ、お母様っ!
チンポを独り占めなんてずるいですう!
騎士の風上にも置けぬその行動っ!」

自分でも呆れるほど射精したのに、まだまだ止まらない。母娘の秘部に挟まれて、盛大に大放射する。

ベルナデット「んあああああつ♡ せ、精液っ、こんなにらひてもりやえりゆなんて最高おつ♡ ンああつ♡ ンううっ♡ ひあああああつ♡♡」

セレスティア「あちゅいのがかりやだにかかって、わたひたちドロドロにされひやうてりゅううっ♡ ンふうっ♡ うああっ♡ ああんっ♡♡」

ビチャビチャと大量の白濁液を身体中に浴びながら、精気や魔力をぐんぐん吸収していくベルナデットさんとセレス。

ベルナデット「はあつ、はあつ、はあつ♡ もっとお……もっと欲しい……♡ こ、こりえくりやいではまら、満足れきにやいぞ……ふうふうっ♡ ああん……♡」

セレスティア「あはあああつ……♡ たくしゅん浴びせられて幸せえ……♡ れも、もっとお……♡ 次はまたマンコにいい……はあはあ……♡♡」



Rosalina Raphaelos



エグゾテニス部に所属する高飛車Rcupお嬢様

ロザリナ・ラファエロス

Rosalina Raphaelos [CV: あかしゆき]

身長: 164cm

スリーサイズ: B120 / W58 / H88

名門貴族出身のプライドが高いお嬢さま。人間を見下していたが、精炎の匂いを嗅いだ途端に発情する変態スキルを習得してしまい、新たな性癖に目覚めてしまう。以来、彼を虜にしようと自慢の美爆乳で誘惑してくるように。実は幼い頃、花の匂いに昂って初自慰をした経験がある。

「今っついで、泣きながら頭を下げて靴を舐めながらお願いするのでしたら、試合終了まで守ってあげてもよろしくてよ♪」



FACE COLLECTION



サキュバス

部活

裸(淫紋)

制服

水着

裸



「きゃああっ！
何かが太ももの間に……
じっ、これは！
あの時握らされたお、おチ……うっ……」



ロザリナ「な、なんですの。いい匂いがどんどん濃くなって……んく。はあはあ♥ 違いますのにつ、気持ちよくなありませんのにっ♥」

チンポの先端に熱さとスメリが擦れると、ロザリナ先輩は肩を丸めて強張った。

ロザリナ「く……うう、んあっ♥ ひやうっ♥ そそそ、そんなトコロに汚らしいラケットなど擦り着けないでくださいませっ！」

精炎「汚らしいなんてヒドいなあ。毎日の手入れは欠かしてませんか？」

爆乳を揉みしだきつつ、マンコにチンポがもっと擦れる様に意識して腰を振る。ムチムチの尻肉や引き締まった内ももにチンポが擦れると、あまりの心地よさにこちらが震えてしまう。

ロザリナ「はあはあ、やあ……ン、ン♥ ふう、ふう、うっ、ううっ、クッ！ ンはあっ、あああ……♥」

汁気たっぷりの熱蒸した蜜肉に龟头が擦れて、いやらしい水音が鳴る。

精炎「どんどん濡れて滑りがよくなってますよ、ロザリナ先輩」

ロザリナ「ッっ♥ 気のせいですわっ！ これっぽっちも気持ちよくなありませんっ！ このラケットが濡らしているのじゃなくてっ！」





「もう精気も魔力も十分れすわあ♡
はううんッ、ンンッ♡ はあッ、はあッ♡
これ以上はおマンコ、こわれりゅう♡」

ロザリナ「んん、おおおっ♡ はへっ♡ あっ、あああ♡ おマンコ降参れしゅう♡ ううッ、らめらめえ、ゆるしへえ♡ はひあッ♡」

ロザリナ先輩が弱い態度になるほどに興奮して、チンポに力が漲る。素早く先端まで引き抜いては、勢いよく根本まで挿入。バシンッと景気のいい音を、何度も響かせる。

ロザリナ「ンやああ、イクイクイクウウッ♡ ううんンンッ♡♡ ハアッ♡ あお……おっ、おっ♡ うう、んはああ……ああああ……はへ、はへえ♡」

ロザリナ先輩もだいぶ獣っぽくなってきた。もはや気品などは感じさせず、チンポで感じて喘いでいる。

精炎「ハハハッ。これに懲りたら、もう俺をハメようなんて考えないことです」

ロザリナ「あはあッ、ああンッ♡ わ、わかりましらあ……♡ もうあなたには逆らいませんわああ……あッ、ああッ、あうッ♡」

従順なロザリナ先輩……！ 堕ちる姿まで美しく魅せてくれるじゃあないか！ ロザリナ先輩をもっとめちやめちやにしてやりたい！

ロザリナ「んんう、ううッ、ふうふう♡ おチンポしゅごい、まらおつきく膨らんれましゅのおお、んおおお、おマンコ掘られれりゅう♡ んううッ♡」





母乳と潮を噴かせながら、ピクンッピクンッと全身を引きつらせる。歯を食いしばって、意識がトンでししまうのを耐えているみたいだ。普段は見ることのできない表情に魅了される。

ロザリナ「ちょ、ちょろまひなしい……ひいっ♡ ううう♡ うっ♡ はあはあっ♡ あっ♡ あおっ♡ ううんっ♡」

考えるよりも先に、ロザリナ先輩のイキ続けているマンコをチンポで掻き回す。膣圧測定魔法の表示はマックスを振り切っている。きっと、ここまで必死になってやっと味わえる、人間のまじやたどり着けない領域。

ロザリナ「りやめええ、イクのとまりやりやひいい♡ はひいい♡ ああああっ、はああんっ♡」

チンポから精液を一滴残らず搾り出す為に、極限まで締め付けられるサキュバスマンコ。限界などとうに超えているチンポの形を変えんばかりに、うねり狂っている。



「んひいっ♡ ふうふう……
おマンコの奥う♡
精液で膨らんだ子宮が
おチンポれ塞がれ
ちゃっれましゅわあ……
あああ……♡」





「まだ終わりじゃありませんもの♡
むしろこれからですわ♡ はあはあ、
ふああ♡ さあ、射精おチンポ、
搾らせて貰いますわよ♡」



ロザリナ「射精てますわああ♡ はああんッ、おチンポがいっぱい暴れながら、
ビュルビュルといっぱい射精してええ♡ あああん、あちゅいい♡」
言われた通りに深く突きさしたまま、マンコの中に熱波を放出する。タイミングよく収縮する膣に搾られて、出し始めたばかりだというのに尿道に新たな熱波が押し寄せては出て行った。

ロザリナ「はあはあ……ンン……はあッ♡ ううん、アナタの精液がおマンコの中にどんどん溜まっていますのお……うふうッ♡♡」
ものの数秒でマンコからあふれ出した精液が水面に白濁の糸を垂らしてたゆたう。サキュバスのマンコに搾られる快感にハマっているのは俺の方かも。——なんて、天井を仰いで呻きながら思ってしまった。

ロザリナ「あふふっ♡ アナタの濃い精気を直に吸収して、おマンコが生き活きとしてきましたわあ♡ はああ……んふっ♡」





ロザリナ「恥ずかしい声が止まらないんですのお……あっ、あっはあん♡ ンッ♡ 見ないで、聞かないで……あっ、あっ♡」
股を閉じる仕草を妨害しつつ、乳首がよく擦れるように弓を動かす。ロザリナ先輩の抵抗するような仕草が、我慢するような震えに変わっていく。

ロザリナ「乳首が擦れすぎてビリビリしてきましたわあ……はあっ♡ あああ……ンッ！ はあはあ♡ あんッ♡ うううッ♡」
膨らんだ乳首がツンツと元気よく頭を振って、母乳をまき散らす。チラチラと、ロザリナ先輩もみんなを意識している。みるみると汗や愛液も増えていた。

精炎「もしかして見られて興奮してます？ いつもより母乳も愛液もたくさん出ますよ！」

ロザリナ「あなたがいつもよりしつこくイジるからですわっ！ あっ、くあっ、はあはあ……あっはあ、あんッ、ンッ♡」
みんなに見せるのを意識しながら、爆乳を弓で転がし、腰もできるだけ動かす。ロザリナ先輩の声の他に、結合部からはぐちゅりと水音が鳴っている。

ロザリナ（また恥ずかしい姿をたくさんの人に見られていますのに、おっぱいやおまんこをイジられると、声が我慢できませんのっ♡）

「お粗末な弓遣いですわねっ！
ちっとも気持ちよくありませんわよっ♡ はあはあ♡」



（私ってば、おチンポ舐めながら涎を溢れさせるなんて……はしたないっ♥でもでも、おチンポ美味しくて堪りませんわあ♥）

一気にチンポにしゃぶりついて、口内で亀頭を舐めまわす。熱い口内と息遣い。よく動く舌と頬。ふっくら肉厚な唇の締め付け。いろんな感触が一気にチンポに襲い掛かって、呼吸が止まる。

ロザリナ「ンッふうう……♥ ふう、ふう♥ んぶっ、ちゅうう……ちゅくくっ、れりゅうん……くぶっ、くぶっ♥ ちゅううっ♥」

ランチの時はスープを飲む時に音を立てた俺のことを笑っていたのに。今じゃなりふり構わず、音を立ててチンポをしゃぶっている。

精炎（やっべ、ちょっと……射精る……ッ）

ロザリナ（おチンポがビクビクと口の中で暴れてますわあ♥ しかもとっても濃い匂いが口から鼻に上がってッ、くううッ♥）気持ちよすぎて少し射精してしまったが、気にしていないようだ。むしろ味が濃くなったからか、もっと夢中になってチンポをしゃぶっている。

ロザリナ「じゅぞぞお……ぶちゅっ♥ ちゅくちゅく、んちゅるる……ちゅぼっ、ちゅぼっ……んれろお、ちゅっ、くぶくぶっ♥」太いストローから飲むゼリーを吸るかのような吸引。思わず腰が浮いてしまう。





「今日はアブない日れすのお♥ だっ、だからあ♥ ご主人様のおチンポ欲しがりな私のドスケベおマンコお、孕ませれえッ♥」



ロザリナ「はひいっ♥ あおっ♥ おおうっ♥ 射精寸前のおっきおチンポ♥ おマンコを突き上げれえっ、子宮がちゅぶれひやいましゅのおお♥」

これは……子宮口が柔らかくなっているのか？ 亀頭で感じていた膣奥の感触が変化し、肉穴の中にさらに窮屈な肉穴ができたような気がしてしまう。プリプリとした力強い締め付けに、亀頭が責められているみたいだ。

ロザリナ「ひゃうう、おチンぽれ子宮ズンズンされれイグうう♥ ひあああ、ああッ♥ 子宮れいきゅううう……ンンン♥♥」

子宮とチンポをディープキスさせながら、力いっぱい股間をぶつけていると。脚や腰を跳ねさせながら踏ん張って、チンポを締めるロザリナ。

ロザリナ「ふうっ、ふうっ♥ ふああ……あっ♥ ああん、ンッ♥ ふああ……ああ……ああん、ああ、ああッ♥ はううう♥」

ロザリナの噴き出した愛液でこちらの股間までビシャビシャだ。こんなになるまで悦ぶなんて、最高のサキュバスメイドだぜ！

ロザリナ「ふおおお……おっ♥ ほお♥ はへ♥ はへえ♥ ううん……んひい♥ ご主人様専用おマンコ、らめになりゅうう♥」



「ああああ……欲しいですわ、アナタの1番濃
い精液い♡匂いも量も、精気も魔力もすご
くて、どうしても忘れられませんかのお……♡」

ロザリナ「きやううッ♡ うっ、ああ
……おっぱいの奥にズンって響く、なん
て力強い突き込み……ハアハア、ああ
あ……♡」

思い切りチンポを谷間の奥へと勢いよ
く突き入れる。ロザリナ先輩の爆乳の
圧力と相まって、ズルッと先端から竿ま
で激しく擦れた。

精炎「すげーだらしな顔になってる
の、自分で気が付いてなかったんです
かり」

ロザリナ「それは……ええと……はあ
あ、ああっ、ンンン……く♡ うっ♡
ああン♡ ううっ♡ あっ♡」

筋力差と刺激の強さの差に、及び腰に
なってしまうロザリナ先輩。優雅
さと恥じらいをまだ捨てきれない
ロザリナ先輩には、思い切った動きは
できないだろう。何度でも腰を引いて
は素早く突き込み、腰振りを行う。

ロザリナ「あんッ、おっぱいに激しく腰
振りしちゃダメですわ、おチンポがとっ
ても擦れてますのお♡ 熱いい♡
はあっ、あああッ♡ ああンッ♡」

「が、理事長っ、ンンンっ、フィリス先生っ……
や、やああん、見ないでくださいっ……！
こんな、感じてるおところを見られたら
恥ずかしいですわ♡ あああっ♡」



ロザリナ「もっとおっ♡ もっと犯してもよろしくてよ♡ 私のおマンコを狂っぴやうぐりやい突きまくって、犯し続け
てくらしやいませええっ♡♡」

たっぷり詰まった蜜液をグチャグチャと掻き混ぜるようにペニスを突き込み、高速で出し入れする。

アルヴィネラ「んむむうっ、クリトリスっ、皮むいてっ！ もっと摘まんてっ！ グリグリっしてえええっ♡♡ 感じし
ゆぎちやうぐりやいがいいのおおっ♡♡」

理事長の、可哀想なぐらい張りつめて膨らみきったクリトリスの包皮をむいて、激しく指の先で引っ掻いていく。

フィリス「おほおん♡ 指3本も詰め込まりえて、おマンコの中ズボズボされてりゅっ！ ひい♡ ひいっ♡ もっと
お♡ 掻き混ぜてっ♡ おおっ、おん♡」

もっと高速の抽挿をせがむように、フィリス先生はいやらしく腰をくねらせる。



イザベルさんとロザリナ先輩は、尻を持ち上げるマングリ返しポーズのおかげで、自分達から噴出される汁を浴びながら悶えている。なんて情けなくて、エロい姿だろうか……♪ 見ただけでチャームされて、その興奮がそのままチンポに流れ込み、精液になってイザベルさんとロザリナ先輩のマンコに流れ込んでいく。

精炎「イザベルさんもロザリナ先輩もすごいマンコだッ、射精がいつまでも止まらないッ♥」

イザベル「おふっ♥ おマンコに収しやりまりきらない大量射精い、ひいっ♥ お腹の中で重い精液がグルグル動いれっ♥ きもひいいれしゅのお♥」

マンコからはもう精液が溢れているが、構わず交互に抜き差しを繰り返して中出しを続ける。

ロザリナ「私にももっとお♥ んおおおっ♥ おチンポきましたわあッ♥ ああ、射精しれっ、射精しれえっ♥ んっはあ、ああンッ♥」

搾精モードになったイザベルさんとロザリナ先輩のマンコに、どんどん搾られていく。

「射精しゅごいい♥ 精液がいっぱいれっ、お腹が膨らんでいるみたいれすわあ♥ ンンン、ママと一緒に受精させられましゅわあッ♥ はっひいいン♥」



Sophia von Managras



夜行性で甘えん坊のJcup下級生

ソフィア・フォン・マナグラス

Sophia von Managras [CV: ハッ橋きなこ]

身長: 140cm

スリーサイズ: B98 / W52 / H75

J-cup

あ いけないが少しわがままな性格をした、ヴァンパイアとインキュバスの間に生まれたお嬢様。夜行性体質のため昼間の活動は魔力消費が激しく、精炎のキスによる魔力補充無しでは歩くのもやっと。だが、補充しすぎると発情してしまうことも。ユリドラシルにない生活慣習や娯楽の話が好き。

「おおっ♪ さすがは将来の我が眷属！
気が利くではないか。うむ。よきにはからえ♡」



FACE COLLECTION



制服

サキュバス

水着

裸(淫紋)

制服(ぬいぐるみ)

サキュバス(ぬいぐるみ)

裸

「んあつ、あぁあ♡ 精液っ、口に直接う♡
んあつ、あぁあ♡」



精炎（可愛い後輩をザーメン便器みたいにするなんて……たまらない！ 興奮がヤバすぎ！）

背徳感も手伝い、射精は自分でも信じられないくらい長く続いた。

ソフィア「ゴクッ……！ ゴギュッ、んっぐウツ、ゴクン♡ んひゅっ、うはあつ、ハアハアッ♡ す……しゅごい精気と……魔力なのりゃあ……♡」

吐精が終わると、ソフィアはまた喉を鳴らして汚液を飲み干す。自身の肉体を汚されたというのにまるで気にも留めず、飲酒でもしたかのように表情を恍惚とさせ、潤んだ瞳でこちらを見上げた。

精炎「くはっ、ハアハアッ！ 大丈夫だったか……？」

ソフィア「はふう〜♡ 極上の魔力を、もらえたからの……♡ はう、身体が熱くてえ……あう、わらわも気持ちいいのじゃあ……♡」



「はひゃあつ、あふうっ、ふうう……♡
子宮にい、子種のプレゼントお……っ、
ふにゃあ♡ とっへも
よかつひゃのじゃあ……♡」



ソフィア「ひゃわあーっ♡ 射乳いいのら♡ あひっ、ひゃひイ♡ 精液もらいながりゃっ、射乳絶頂しゅごひィイ♡」

ビクビクッと背筋を反らし、ソフィアはオルガスムスにはまり込む。幼げな顔を淫楽に歪め、べろりと舌を突き出し、よだれまでだらだらとこぼしたアクメ顔をさらしていた。

精炎「射乳絶頂してるソフィア見ると、ザーメン止まらないッ！」

ソフィア「ひひゃあ♡ あつ、あーっ♡ オマンコの中あつ、精液ビュクビュクきへるう♡ 奥に熱いの浴びへ、イッへりゅのりゃああ♡ オマンコの奥うっ、きゅはあ♡ 子宮に精液ぶちゅけられりゅのっ、気持ちよくへたまらなひィイっ♡」



吐精中にさらに上り詰めた肉幹はドクドクッと脈打ちながら大暴れし、大量の汚液を後輩の素肌に向かって放出していた。

ソフィア「んひやははンッ♥ あちゅッ♥ ああンッ♥
あ♥ ああ♥ 精液たくさんっ、わらわに飛んでくりゅうッ♥」

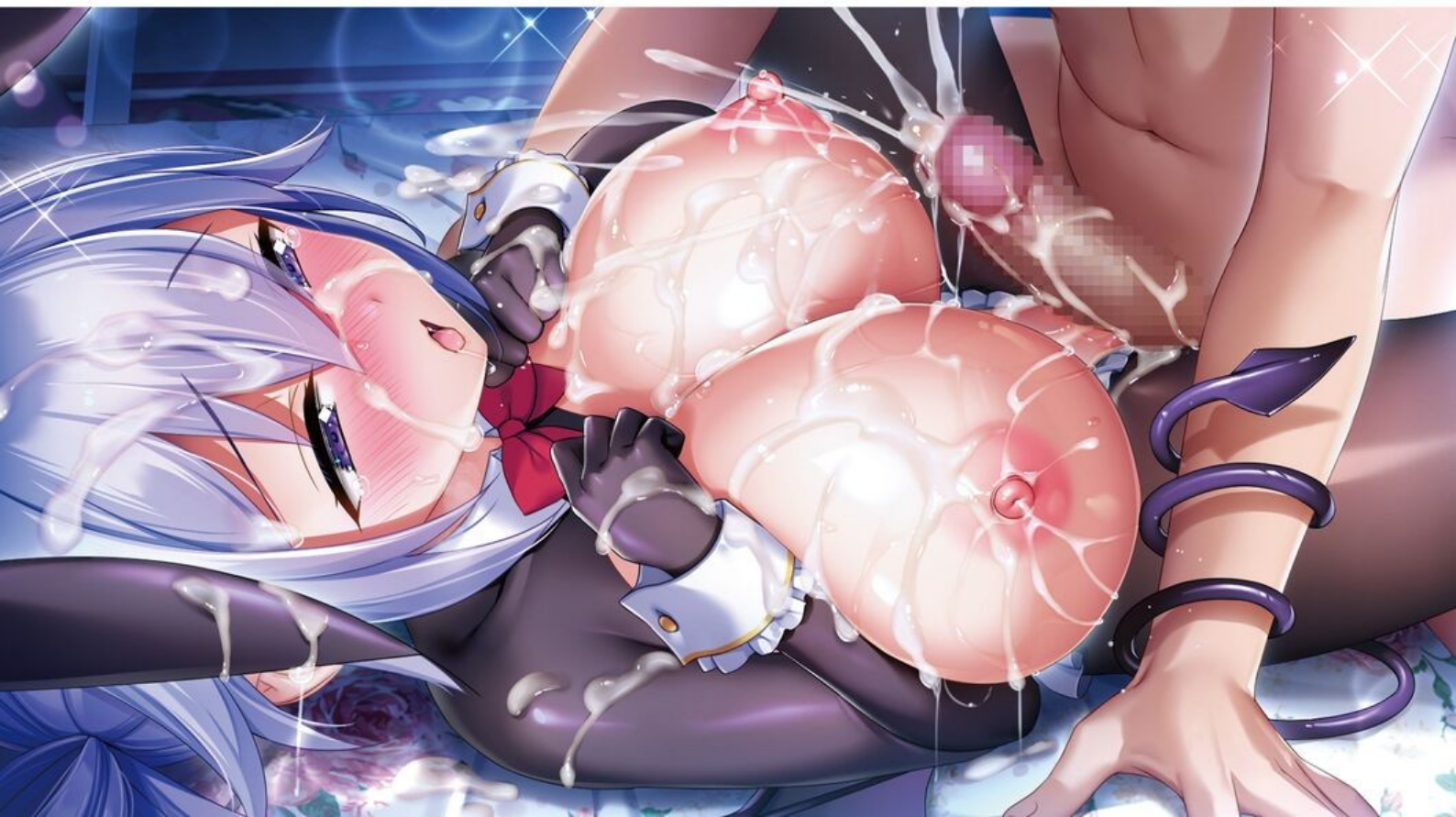
汚い汁で肉体を穢されているというのに、ソフィアは嬌声を上げ、小さな身体でビクビクと悶えている。熱い精を浴びるたびに快感まで得ているのか、膣口もヒクヒクとさせて奥から雄汁と蜜汁の混合液をトブトブと吐き出していた。

ソフィア「ひゃうう♥ オチンボがビュクビュクしへえっ、精液い、顔まれ飛んれくりゅ♥ にやううっ、熱いの気持ちいいのじゃあァ♥」

肉竿の先から勢い良く噴出する生殖液が、後輩の乳や首筋、顔や髪まで降りかかる。誰もが嫌がるどころまで汚されたにもかかわらず、ソフィアはめくるめく愉悅に飲み込まれていた。



「ふう、ふう……。精気、吸い切れなかつひゃのが、
残念じゃあ……。♥ あふっ、次は……。全部、子宮で飲みたひィ……。♥」



「中出しっ、ひゃああ♥
ダメになっへしまっう♥

今受け止めたりゃっ、皆の前れっ、
はじゅかしくなりゅっう♥」



ソフィアはマットの上で大きく仰け反り、絶頂の悲鳴を放つ。めくるめく快感にさらされた後輩は、ブルブルッと揺らしている豊満な乳の先からも、ビュッビュッと母乳を放出させていた。

ソフィア「ふえっ♥ ふええええっ♥ 入りゅうう♥ オチンポのお汁うっ、子宮の中にもビュルビュルきへりゅうう♥」

いつも可愛らしい後輩が、快楽に浸りきってどうしようもなく蕩けた女の顔になっている。舌をだらしなくべろりと突き出し、瞳も淫楽に溶けきったアクメ顔になっていた。

フィリス「あんなにイカされたあとに奥で中出しなんてされたら……ああ♥ いくらサキュバスでも激しくイッてしまいますよお♥」

1年生「私がされてるわけじゃないのにつ、はああ♥ イっちゃう♥ ンンンンッ♥」

ソフィア「へあっ、あああ♥ 見られへるのにイッ、気持ちよくへらめえええっ♥ イクイククラーっ♥♥」

先生やクラスメイトの視線で興奮が際限なく高まったソフィアは、悶絶しながら派手に果てる。結合部の上部にある小さな肉穴からブシュブシュと音を上げ、透明な液体まで噴出させていた。



「はあ……はあ……っ♡ え、あああ………♡
わらわあ、本当にママになっぴゃっらあ♡」



ソフィア「あひゃあ♡ ああ……っ♡ お腹あ、重ひい……♡ んふふ、お主の子お……ハアハア、妊娠しひゃあ♡♡」

これまでの交接と連続絶頂で思考能力も落ちているソフィアは、俺の子供を身ごもったと勘違いしている様子だ。蕩け顔のまま嬉しそうな笑みを漏らし、穏やかでうっとりとした声で悦びを口にした。

精炎「エロ魔導書ってここまでできるのか……っ。素敵すぎる!」

ソフィア「妊娠ゆるのお、ステキじゃな♡ はふ、あう♡ ああ♡ お腹に赤ちゃんがいると思うとっ、興奮がしゅごくなっへきひゃあ♡」

強烈な昂ぶりによって魔力まで高まり、膨らんでいる腹に淫紋が現れる。ついに淫魔の本性が完全に目覚めたソフィアは、乳と腹を揺らしながら下腹部をくねらせ始めた。

精炎「うわっ!? 熱いマンコがうねりまくってる! チンポしごかれまくってっ、ザーメン搾りのターンだッ!」

ソフィア「孕んれもおっ、ザーメンほしひ♡ はへ♡ へああ♡ もっぴょ妊娠マンコれ精液飲みひゃい♡ 飲み干したひいひい♡」

ソフィア「らめらめえええッ！ 潮噴き絶頂、止まりやぬうっ♥ 人前れっ、ダメなのに……中イキれお潮噴くのふひアアアんッ♥」

精炎「ソフィアの潮噴き絶頂、色んな人に見られてるぞ！」

ソフィア「いやァああッ♥ 見られひゃっ、らめなのにイッ♥ イクの止まらなひのりゃッ♥ イクイクううッ♥」

嬌態を人に見られる羞恥心に余計に興奮を覚え、後輩は小さな身体をブルブルルッといやらしく震わせる。下半身もビクンッビクンッと卑猥に踊らせ、膣肉も雄汁を搾るようにうねらせた。

ソフィア「ひゃああんッ♥ まらオチンボからっ、ピュルピュル精液れてりゅう♥ オマンコの奥う、熱くへ……んへえええーッ♥」

繰り返して絶頂するソフィアは涙やよだれまで垂れ流し、べろりと舌まで突き出したみっともないアへ顔をさらす。ヴァンパイアの名門の家柄でプライドも高いはずなのに、人前で果て続ける後輩の姿は、この上なく淫靡だった。

精炎「ソフィアがエロすぎてっ、俺まで興奮する！ くうっ、このまま……ッ！」

ソフィア「うああッ？ オマンコの中れっ、オチンボ大きくッ……っ♥ ああッ、オマンコが、ぐばっへえ……押し広げられりゅうッ♥」



「知らないのらァッ♥ 腰が勝手に動きよりゅう♥
オチンボが気持ちよしゅぎへっ、くねりゅの止まらなひィいッ♥」





まるで俺に見せつけるかのように、後輩ははしたなく自分の乳を吸った。

ソフィア「んじゅるるっ♡ ちゅちゅうっ♡ ふはっ、これが……わらわのミルクの味い……♡ ゴクゴク……ンッ、ふうふう♡」

精炎「自分でおっぱい吸うって、オナニーと同じじゃなか！ エロいぞソフィア！」

ソフィア「あひゃん♡ おっ、オナニー……っ？ んふあっ、甘ったるくへえ……っ、ふああ～っ、ミルク臭が鼻に抜けりゅう♡ ハア、ハア♡」

己の母乳で酔ったように表情を蕩けさせ、ソフィアは肩をブルブルと震わせている。

ソフィア「お主はあ……んは、こんなにいやらしいものを……味わっへおっひゃのかあ……♡ んん、たまらなくなりゅう♡ ちゅろろっ、じゅろ♡」

「お主にミルク飲まれひゃらっ、わらわのエナジーが
吸われりゅからの♡ ふふふっ♡ 自分れのみゅ♡ あむう～♡」



ソフィア「あひゃああ～♡ ひゃあああーっ♡ お潮もらめッ！ 止められにゅ♡ 潮噴き絶頂すりゅううっ♡」

後輩は下半身を痙攣させながら、膣口の上部にある小さな肉穴から透明な液体をビュビュッと噴出させていた。

精炎「ミルク噴きながら潮まで噴いてイッてるソフィア、エロすぎだ！ ザーメン止まらなくなるッ！」

ソフィア「止めなくへよひいい♡ オマンコに全部う、オチンボ汁搾り出しへえッ♡ んきやああンッ♡」

極限に至っている小柄な淫魔は、下半身をカクカクといやらしく振り回す。膣肉もうねうねと波打ち、肉襞を絡み付けてゾリゾリと削るようにしごき立ててきた。

精炎「ザーメン搾り出すよりっ、搾り取られてるッ！ ぐううッ！ サキュバスマンコ、いつもよりヤバいッ！ 奥さんマンコすごいぞッ！」

「イひひひッ♡ 子宮のお口いっ、
グリグリしひゃら♡ ンひゃあ♡
それっ、気持ちよくなり
すぎるのじゃあアっ♡」





「お母ひやまつ、れれれっ、んちゅう♡
ジュルんっ、れりよ、本気らっしゅわいっ♡
乱れしゅぎなのりゃ♡」

ラナエステ「本気やあ♡ 孕ませてえ♡ そなたの子供おつ、おんん♡ おお♡ 身ごもらせひえほしいのおおッ♡」

精炎「うおあ!? ラナさんがマジだ! マンコがうねりまくってチンポ搾ってるッ!」

収縮を繰り返す子宮まで龟头にムチュウッと吸い付き、子種を飲み込もうとしていた。

ソフィア「らめらめえ♡ お母しやまを孕まへひゃ♡ んんん♡ りゅろっ、レロレロっ♡

じゅちゅう♡ ジュルッ♡ ちゆるウ♡」

精炎「そっ、ソフィア……ッ! そんなことたら余計にイキそうだって!」

興奮が極まっている後輩は言葉とは裏腹に、放精を促すように俺の乳首を舐め上げ、いやらしい口付けを繰り返した。

ソフィア「わらわが先なのりゃ♡ んちゅう、れりよん♡ わらわが孕みゅう♡ ジュロロッ、ふひゃあ♡ イッキゅ♡ ンンっ、イクのりゃあ♡」

ラナエステ「ザーメンきて♡ おほおお♡ マンコの奥っ、子宮にきてえ♡ そなたの子がほしっ♡ おおおん♡ イキながりや孕むウッ♡」





1000年の眠りから目覚めた
Ucupバーサーカー

ファミ

F a m [CV: 金松由花]

身長: 175cm
スリーサイズ: B131 / W60 / H94

古のサキュバス文明時代に作られ、学園の片隅で眠っていた。起動させた精炎をマスターと認識し、彼のためなら身体を張る献身的精神を持つ。性知識や性スキルが初期化されていて、学園の授業や精炎の実践教育でサキュバスとしての機能を取り戻そうとしている。ソフィとは気が合い、仲良し。

「キノコ……なんだが素敵な響きです。いつか、マスターのキノコを……もらえらるんでしょっかつ♡」



FACE COLLECTION



制服

サキュバス1

サキュバス2

水着

裸

裸(淫紋)



ファミ「気持ちよかったです……マスターのおチンポももっと気持ちよくしますっ♡
れるん、ぬるる……ん、んん、あふ♡ ちゅっ、
ちゅく♡」

精炎「おお！ は、激しいな……♪」

ファミ「はあ……ふう、んれろ、ぬるる、ちゆる、んちゅちゅう……ちゅじゅびちやあ♡ マスターの味が濃い……はあっ♡ はあっ♡」
おっぱいをタブンタブンと乱暴に揺さぶり、チンポの先端にチュウチュウと吸い付いてくる。そのまま舌先を鈴口にグリリリッとねじ込んでくると……俺は思わず感嘆のうめき声を上げてしまった。

ファミ「んあむ、むぐ、ちゅぬる、れろ、れろれろ……はあ、はあ……美味しい……舌が止まりません……♡♡」

精炎「ああ、ファミのおっぱいに搾られてるのがよくわかるよ……ちゅっ、くちゅちゅ！」

ファミ「ん、んんっ♡ ちゆる、じゆるじゆるうう……♡ おチンポから魔力が充填されていますう……ん、んん、れろれるる、ちゆるうう……♡」

「んっふっううッ♡♡♡ んぐっ、
んちゅ、ちゆる……れろれるる……
ゴクン……んはあ♡
これがマスターの精液の味……
精液の匂いい♡♡」



「はああ……はああ♡ おマンコれえ、ましゅたあ
あの登録、かんりようれしゅう……♡ はあ、
はあ……はうんっ♡」

ファム「ああっ、感じる……マスターのおチンポの形……ん、ん♡ おチンポの全てがおマンコに刻み込まれますうっ♡」
ファムの声が、甘くしっとり森の木々の間を満たしていく。押し込み、引き抜きを繰り返していると、豊満なファムの全身が痙攣を繰り返していく。

ファム「はああ……震えがとまりませんっ♡ くひゃあっ♡ あっ、ああンッ♡ ンッ、はあはあっ♡ ううんっ♡ んあっ♡ あっ♡ 思考能力が低下して……マスターのおチンポの感触で頭がいっぱいに♡ あっはん♡」

精炎「はあはあッ！ おお、こっちも病みつきになりそうだ！」

ファム「ああ、私はおチンポが好きになっているのですねっ♡ はあはあっ、ああ……んっはあっ♡ ああンッ♡」

精炎「そうだよファム。俺もファムのマンコの事で頭がいっぱいだッ」

ファム「ん、ん、私のおマンコはマスター専用です……ん、ん、お好きなようにお使いくださいっ♡」



「もつとましゅたあと
子作りしたいれす♡
ダメれしゅかあ♡」

グググッと腰が浮かせてファムの身体を股間から持ち上げながら、子宮と龟头を密着させて射精する。一発一発の勢いが自分でもわかるくらいに激しくて、飛び出していく精液に尿道が刺激されているみたいだ。途方もない解放感で、目の前に火花が散った。

ファム「あああ……おマンコの中に心臓がもうひとつあるみられしゅう……はあっ♡ ああ……き、気持ちいい……んうっ♡」

チンポの脈動と同調しているファムは、カクカクと股間を跳ねさせながら、喘ぎ続ける。すごすぎる。射精と一緒にマンコがポンプして、どんどん精液を搾っていく。

ファム「あっはあッ♡ まら出てりゅうッ♡ 子宮……孕む前にらめになっひやう……♡」

射精するたびに跳ね上がるチンポに反応し、艶っぽい喘ぎ声をもら出させていく。





ファミ「あっ、あっ♥ あったかくて張り付いてきて♥ 出っ張ったカリがグリグリつれえ……んっふうう♥ はあはあっ、ああ、ンン♥ くうっ♥ イクイク……ああああッ♥ あッ♥♥」

挿入した途端に絶頂したらしく、すぐに表情を蕩けさせた。膣粘膜とチンポが触れただけで、ファミの快感が跳ね上がっていくのが感じられる。

ファミ「はあはあ、恥ずかしい……全然我慢できなかったれすう……んっ♥ ふうふう……あうっ♥」

精炎「でも、激しくウネツて最高だ♪」

ファミ「ああ……はあはあ……んっはあ♥ マスターのおチンポも……とってもピクピクしれれ……しゅごいれす♥」



「んっはあああ……あああ、生のおチンポきらああっ♥ はひいんっ♥ んんん……うう、こっちの方がしゅきれすう♥」



「ほおっ!? おおっ♡
多しゅぎましゅう♡
え……はひひっ♡
ンアアッ♡」
ま、ましゅたあぁ♡
おマンコから溢れれ



ファム「フウ……フウ……ンッ♡ あはぁ……♡ もう気持ちよすぎれえ、頭まっしろれす……はぁ……はぁ♡」
脱力していくファム。しかしまだ膣は小刻みに震えていて、チンポを悦ばせつづけている。

ファム「んっ、ふう、ふう……んあぁ……あぁ♡ おチンポがおマンコの中れプルプルしれれえ……感じちやいましゅう♡」
余韻すら大きな痺れになって、お互いの身体の中をいつまでも駆け回っていた。

ファム「おマンコがましゅたあのおチンポと同じ熱さになって蕩けてくっついたみたい♡ 一体感がしゅごいれすう……♡」

スメリと痺れで区切りがひどくあいまいで。ファムの言う通り、性器が蕩けて一つになっている錯覚が起きていた。

精炎「搾精しすぎじゃないか? ふふ……ふう……うう……♪」

ファム「ましゅたあのおチンポがスゴいれすう……♡ いつまでも、おマンコがイキ続けれえ、止まりませえん……♡」

ファムの下半身はお互いの淫液が混ざって泡立った汁で、べったりと濡れて。プールの水と消毒魔法の匂いなんて気にならないくらい、性臭もすごい事になっていた。





「ひゃああああ……れてりゅう……♡
おっほっ♡ ましゅたあの精液い、
子宮の中れうねってりゅう……あふっ♡」

激しく規則正しく、そして力強く尻を振ってチンポをマンコで抜くファム。

精炎「んぶっ……ウツ、ウウウツ!!」

ファム「あああ、またおチンポ膨らんでりゅう♡ また射精してくれましゅかつ♡
ドビュドビュつれいっばい射精しちゃいましゅかあ♡ ああん♡」

収縮した膣内が、チンポを豪快に締め付けて抜き上げてくる。また射精欲が沸騰し、尿道の中に今にも勢いよく流れ込んできようだった。

ファム「ましゅたあのおチンポ暴れてりゅう♡ ふおっ……んおおっ♡ 子宮がつ、ましゅたあの為のお部屋ちゅぶれりゅう♡」



再びの射精と同時に、突然ファムがボテ腹になった。マンコも熱くなり、膣肉が力強くチンポに食い込んで搾り上げる。

ファム「ふうっ、ふうっ♡ んうん……♡ ふおっ♡ おお……ッ♡
くふっ、う、あ、ああ……♡」

容赦なく精液を搾り取られていく。快感による震えが止まらない。恥丘も爆乳も膨らんだお腹も、充血してさらに赤色を濃くして。むわっと感じる程の濃いフェロモンを放つファム。多分、さらに強力な催淫効果があるに違いない。

ファム「ましゅたあが何かしたんれしゅかあ……ンッ、ふうふう……うぐっ♡」

精炎「お前を孕ませるカラダにした時の副作用だな……疑似的な妊娠だろう」

ファム「本当に壊れちゃっつのかと思いましあ……はああ……♡ ああ、でもこの感じが妊娠……あふっ♡」

「ちょっぴり苦しいけれど、子宮もお腹も幸せでいっぱい膨らんれ……
んふう♡ 妊娠、気持ちいいれすう……♡」

「おっぱいに精液がねっとり
張り付いて……はー……♡
あふう……♡ ましゅたあのエッチな匂いが沁み込んじゃつれましゅ♡」



ファミ「ましゅたあの精液、すごい量♡ 溢れちゃってましゅ……あっぱあ……はひんっ♡」

乳圧に精液が搾り出され、谷間の中で強烈な噴出を体験させられる。柔らかく深い谷間の中に収まらないほど精液が飛び散り、ファミの顔や身体にも満遍なくかかっていく。

ファミ「ふー……♡ ふー……♡ ううん♡ ミルクもとまらないれしゅう……おっぱいマンコイっちゃってましゅうッ♡」

ビュルビュルと溢れているのは、精液だけじゃない。母乳も大量に噴射されている。

ファミ「んはあ……はあ……はあ……はああ♡ んん……んぐ……♡ あふう……♡」

まるでファミがおっぱいから射精しているみたいだ。なんて。ぼんやりとしていく頭で思ってしまった。谷間で挟み込んだままのチンポは、いつまでも窮屈感を跳ね除ける勢いで暴れ続けていた。

ファミ「あぶっ♡ 精液の勢いが強すぎれ、口にまれっ♡ んあ♡ はあ……♡ はあ……♡ むぐむぐ……くちゅくちゅ♡ ごくっ♡」

あ〜んと口を開けて、谷間から飛び出した精液を受けると。まるでテイスティングでもするように口内で遊ばせてから、ゴクリと飲み干した。





「あああん、だ、だから、いちいち『彼氏』って言わないでえ……ん、はあ……はああん♥ それから、早くおチンポ譲ってくださいっ♥」



ファミ「はあはあ♥ お母さんのおマンコが美味しそうにおチンポ食べてる……ずるいですっ♥」

精炎「ファミのおマンコも美味しそうに指をしゃぶってるぞ……♪」

ファミ「ああんっ、それはマスターがいっぱい動かすからですっ♥」

ファミが羨ましそうなのを隠しもせず、ルシアさんと俺をせかす。

ルシア「ほ～ら、ファミ？ そうむくれたりしないの！ 甘えん坊なんだからあ……ん、んん、ふう……はあ……♥」

ファミ「お母さんが来るってわかってたら……はあ、はあ……おチンポ、ふにやふにやになるまで、あらかじめ抜いておいたのに……ん、ふう……♥」

ファミはぷりぷりと可愛らしく拗ねながら、膣内をほじくり回される快感に身悶えている。



ソフィア「ンンっ……ふあっ、うああっ、ンうっ……あ、はああっ♥ みんな美味そうに飴をしゃぶっておるな……ああっ♥ わらわの食べている飴はひとまわりサイズが大きいような気がするが……気のせいかなのう……? ンっ、ううっ……はあっ、ンンンっ……♥」
俺の上で腰を使いながらソフィアが陶然としたような表情を見せる。

精炎「おまえ、身体が小さいからな。大きく感じるんだろ」

すべてのチンポ飴は俺サイズだが、ソフィアは膣が小さめなので窮屈なのは確かだ。もともと、片手でチンポ飴を挿入しているシャルのマンコもかなり狭いので、似たようなものである。

シャルティーナ「ン、ンンっ、ああうんっ……せ、先輩のおチンポさん……ああうっ……私の中で暴れてるような心地がしますう……♥ はあ……はあ……ンふう……♥」

シャルの秘裂に突き立てているチンポ飴が、体温で少しずつ溶けているのがわかる。小さくなってしまうと、新しいのと交換してやろう。

精炎「溶けてるのは飴じゃなくてシャルのおマンコだな」

「ああっ、シャルさん、
すごいですっ、腰を
あんなふうに卑猥に……
わ、私たちに見せつけて
いるみたい……! ま、
負けてはいられません……!」
(ファム)

「はああ、あっ、ああうん♥
ですのっ♥ お気に入りの服が着れなくなっ
ていい迷惑ですわ♥」
(ロザリナ)



鷹美「はあ……はあ……♥ くっ! さっきからお尻を舐めたりおっぱいを揉んだり……あまつさえセックスまで始めて! ちゃんと測定しなさいよね!」

精炎「やりながらちゃんと測ってたぞ!」

エロ魔導書のおかげで、俺が測定することに関しては何もつっこまれない。全員生まれたままの姿をさらけ出し、なんやかんや言いつつも爆乳や尻をしっかりと測らせてくれた。

シャルティーナ「もしかして、測定するのは私達のおっぱいやおマンコの感触や感度……? あうう、恥ずかしい……」

精炎「シャルちゃんは賢いなっ! その通り!」

メジャーで計る素振りをしながら、爆乳を縛ったりして。測定しているのはサイズだけでなく、感度や成長具合を重点的にいろんな手段で測っているのだ。

セレスティア「くうっ、女を裸に剥いて並べたと思ったら、気ままに身体を弄ぶなんて♥ しかも私は放置してっ! ご褒美のつもりか♥」

精炎「放置しろとか言い出したのは、そっちなんだけど!」

中にはセレスみたいに……というか、セレスはいつものように、ドMエンジンをフル稼働させているが、最低限の羞恥心が残っているまま、これからチンポで与えられる快感におマンコを疼かせている。全員、丹念に性畜してきたサキュバスちゃん達だからな! 内心は期待してしまっているに違いない!

精炎「それじゃあ、そろそろ本格的に測るぞっ!」

ファム「おチンポを挿れながらおっぱいをイじるのはダメですっ……マスター♥ はあ……気持ちよすぎて混乱してしまいます!」

「くちゅぷ、ぢゅるるう……ンンっ、はうっ……もうっ、デレデレしてえ……よくもこれだけ相手にできるものだわっ……ふぁ……あひっ、あうんっ♡」(魔恋)



「ンンっ、もうっ! 魔恋ばかりずるいわっ……いつもいつもそうやって、独り占めしてえ……! ンはあっ……あっ、はぁあっ……」(キラルル)

魔恋「はふうっ♡ ンっ、も、もうっ、皆にいい顔してえ! ンっ、ひはあっ、ああ♡ わ、私だけ特別に……って、うう。な、何も言っていないわよっ♡」

キラルル「ちょっとお、魔恋のほうがピストン1回多かったわよ? こういう状況なんだから、平等に……ひゃあん♡ ふぁあっ、あっ、硬くて、遅しいい〜♡♡」

魔美「はぁはあっ、ど、どうして委員長の私がこんな奉仕を……ンあっ♡ し、しなきゃいけないのっ♡ はぁん、アンタのチンポが、擦ってくりゅ♡」

キュンキュン「くうっ……ああっ、もっと応援してやるぞ! ダークエルフに不可能なことなどないからなっ……ハイエルフなどと違って……あぁ……ンくっふううっ♡♡」

エルゼ「くうっ、キュンキュン、言わせておけば……ンはあっ♡ ダーリンはあたしのもの……ンああっ♡ ひゃっ、ひゃああんっ♡ しゅごいっ、気持ちいいよ♡」

セレスティア「くっ、貴様などっ、戦えばっ、はひンっ、い、いっしゅんれえ……倒して……きゃはあンっ♡ あん、ああん♡ わ、私が倒されてしまいうううっ♡♡」



「くっ……! 委員長にこんな格好させるなんて、明らかに校則違反よっ。で、でも、まあ、仕方ないから、最低限のおもてなしぐらいはしてあげるけどっ……!」(魔美)



「手取り足取りおチンポ取り、
ちゃんと教えて差し上げますから♡
まずはしっかりと準備しませんとね♡
んふっ、ンッ、ンッ♡」(ベルディア)

美しさすら感じる光景に、チンポの中にもみまると熱感が溜まる。その熱感を吐き出せと言わんばかりに、爆乳で締め付けて搾り上げてくる。ベルディア「ハァハァッ! んんっ、はああ、また完全に勃起したおチンポのデコボコがおっぱいに擦れれ……感じりゅう♡」

チンポを簡単に埋もれさせる爆乳達は、お互いに擦れ合いながら母乳を溢れ出させている。その爆乳達の蠢きにすら魅了されているような気がする。

ファビオラ「皆、興奮ししゅぎよお♡ 私の乳首まで擦れ合って、気持ちいいでしょお……♡ あっはあ、ああ……ンッ♡」

大きく肥大した乳首から枯れることなく母乳を出しながら、まるでセックスをしている時のように感じている。いつもに増して魅力的になっていく人妻サキュバス達。気持ちよくなっているのはチンポだけじゃない。

アンアン「私達、どんどん敏感になっていますのよお♡ あっ、ああっ♡ 硬いおチンチンと柔らかいおっぱいに搾られてましゅう♡」
お互いがお互いを感じさせ合って、どんどん昂っていく。



「ああっ、んんっ♡ 水着コンテストなのに
おっぱいを吸うのっ!? 審査員が不正をするなんて
ダメよお♡」(麗美)

「んっ♡ うふふ、こうしておっぱいを吸わせていると
……まるで大きな赤ちゃんができたみたい♡
はあ……♡」(ベルディア)



「私のところに来てくれたら、毎日おっぱい吸い放題よ♡
うふふ♡ アナタと気持ちよくなりたくて、いっつも
濡れちゃってるんだから……♡」(ファビオラ)

「残念です……アナタと2人っきりで深く愛し合えない
なんて♡ 心ゆくまで私の身体でおチンチンを満足させ
てあげますのに♡」(アンアン)

「あん……本当に孕ませちゃうなんて、悪い子なんだから……はあはあ♡ あはあんっ♡」(麗美)

「見てください。貴方の赤ちゃんをちゃんと孕みましたよ♡ うふふ♡ ふうふう……♡ 母乳が溢れて止まりませえん♡」(ベルディア)

「うふふ♡ 不束なドスケベサキュバスですが、これからもよろしくね♡ パパさん……ちゅっ♡」(麗子)

「んっはあ、ああん……ンっ♡ 膨らんだおっぱいを手とおチンチンで揉むなんて♡ こんな我慢できなくなっちゃう……♡」(ライラ)

「望み通り孕ませていただきましたし、これからも旦那様にはずっとお世話になるのですから、このくらい当然ですわ……ちゅ♡」(イザベル)



「ちゅぽっ、ちゅぽっ♡ 味が濃くてえ、いつも精気で溢ってて、あはあ♡ コレで孕ませてもらったなんて……嬉しいわあ♡」(ファビオラ)

「もう孕んでいるのに、もっと孕ませてほしいなますう……うふうん……ンっ、ンっ♡ おマンコが万年発情期になってしまいますう♡」(アンアン)

「産の産れた貴方にいいようにされて……はあはあ♡ 騎士じゃなくてメスにされてえ……あんっ、ふうふう♡」(ベルナデット)

「よかろう。妾をもっと感じさせるがよい♡ 妾の夫の最初のお勤めじゃ♡」(ラナエステ)

「運の尽き? うふふっ♡ いいえ、私はツイてるわあ♡ アナタみたいなステキな男性と結婚できるんですもの♡」(ルシア)

「はああ……ああっ♡ んんっ♡ かかっ、可愛いとかっ♡ どうせ皆に言ってるくせに……
くうう……バカバカッ♡ ふあっ♡」(魔恋)
「淫乱ドスケベハイエルフめ! コイツは今、私の相手をしていただろ!
自分一人で搾ってえ……ろっ!!」(キュンキュン)
「ダーリン、私のおっぱいもっ♡ ダーリンに搾ってほしくて母乳が止まらないのお♡
野蠻尻でかダークエルフなんてほっといて早く早くっ♡」(エルゼ)



「私が最初じゃないなんて、何様ですのっ♡ いやらしい魔法かなにかでこんな身体にした責任、
ちゃんを取ってもらいますわよっ♡」(ロザリナ)
「貴様ッ! 人の身体で遊ぶだけじゃ飽き足らず、皆を侍らせてッ……なんて鬼畜の所業らっ♡
はやく私も弄ぶがいい♡ ハアハアッ♡」(セレスティア)



「ふあッ、ああッ♡ やっぱアナタの仕業だったのね!
みんなのお風呂を占拠してエッチな行為をするなんて、校則違反なんだからあッ♡」(鷹美)
「見ろ見ろっ♪ わらわ、もおっとポインポインになっちゃったのじゃっ♪
身体が重くて飛びにくいけれど面白いのうっ♡」(ソフィア)



「んぶうっ♡ ちゅるる、ちゅくちゅく……んく、んく……♡
はあはあ、先輩と口移ししちゃった……あうう……♡」(シャルティーナ)
「ふあッ! マ、マスター? それは単に乳首を吸っているだけでは……はあッ、ああん♡
んん……とっともくすぐったいですっ♡」(ファム)
「はっ、はあ? アンタがいつ射精しようがどーでもいいけど!
みっともないくらいに勃起させて可哀想だから、私に射精してもいいわよっ♡」(キャルル)

「はっ、はあっ、あたり前でしょっ！ こんなに幸せにされちゃったんだからっ！
せ、責任取りなさいよねっ♡」(魔恋)
「こんなに幸せにされちゃって……ホントに、許さないんだからっ♡♡♡」(キアルレ)
「あっ、あっ、ンふっ、人間のアンタが私を孕ませるなんて……
こ、校則違反なのよおっ♡ あああっ!」(鷹美)



「ああんっ……くっ、このチンポが私ダメにするんだっ♡
ああっ、もっと奥までえ!」(シャルティーナ)
「あ、あたりまえだろっ、
おまえのダーリンが私の身体で子孫を欲しがったんだから当然だ」(キュンキュン)
「ダーリン、はあはあ……もうっ、ダーリンいつもあんなにたっぷり中出ししちゃうから♡」
(エルゼ)



「あっ、ああんっ、そんなに突いてまだ私を孕ませるつもりかっ」(セレスティア)
「あなたに何度も中出しされたので……できて……当然ですわね♡♡」(ロザリナ)
「お主がドスケベだから……こんなに大きくなってしまったぞっ♡」(ソフィア)
「ああん、とうとうマスター……の赤ちゃん……できちゃいました♡♡」(ファム)



アルヴィネラ

Alvinella

[CV: 美空なつひ]

工 口偏差値の低下で廃校の危機にある学園の理事長で、精炎をユリドラシルに呼び寄せてしまった張本人。性欲が人一倍旺盛。



T-cup
Exciting sub

フィリス

Firis

[CV: 榎津まお]

高 レベルの妻淫系魔法や召喚スキルが扱える担任教師。温厚で穏やかだが、母性本能をくすぐる年下のかわいい男の子が好み。





ア ン ジ ェ リ カ

A n g e l i c a

[CV: 君島りさ]

聖女としてあがめられている清廉
潔白なシスター。だがその実
態は、悪戯の罰として受けた信仰に
目覚めてしまった元悪魔。



N-
cup

ヒロインたちに劣らない個性的なキャラクターが勢ぞろい!!

Characters



リ ジ ャ
L i z z y

[CV: 赤月ゆむ]

明るくて陽気なミノタウロス族
の見習い理容師。初めて店
を訪れるお客さんも気遣える優し
さを持つが、ドジっ娘でもある。



Q-
cup



リラ

L i r r a

[CV: 月森ねね]

近寄りたがたい雰囲気を持つが、実は気さくで話しやすい学園ギルドの受付嬢。雪の魔女とも呼ばれている雪女族の出身。



FACE COLLECTION



FACE COLLECTION

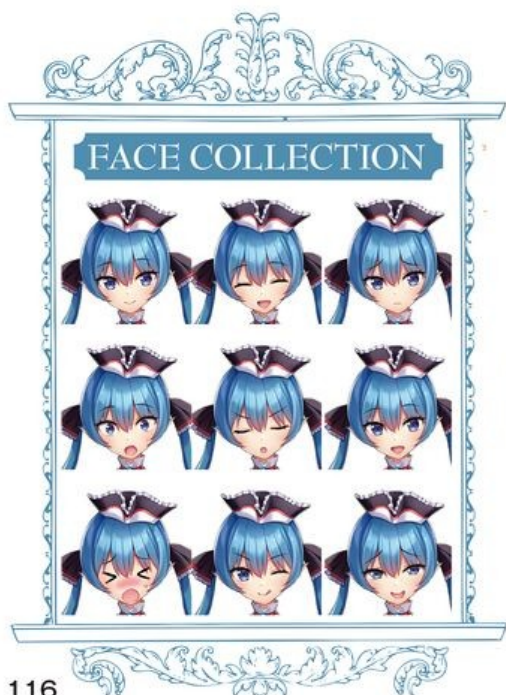


ベルダ

B e l d r a

[CV: 宇佐美日和]

鬼族の元戦士で、今は街の片隅で武器屋を営む人妻店主。マスタークラスの鑑定スキルを持ち、鍛冶師としても一流。



FACE COLLECTION



マロン

M a r r o n

[CV: 七瀬あかり]

海賊に憧れ、マーメイド喫茶で働いている人魚メイド。二足歩行に不慣れなのかよく転び、皿を割る枚数も人一倍多い。





ハピネス

H a p p i n e s s

[CV: 月読梓]

目にするモノは何にでも興味を持つ無垢なハーピー。手の平サイズの愛くるしい雛だったが、エロ魔導書の力で亜人化した。



FACE COLLECTION



FACE COLLECTION

シトラ

C i t r a

[CV: 花月さや]

マジックアイテムの素材を収集している、魔法学校を卒業したばかりの駆け出し魔法使い。極度の方向音痴で、よく道に迷う。



ラグジュアル

L u x u a l

[CV: 雪村とあ]

中二病を患う、自信家で負けず嫌いな妖魔系女学園の1年生。精炎の服装の乱れを直したりと、女の子らしい一面がある。



FACE COLLECTION





「この学園の長であるこの私に……ぬはっつ、こ、このような下卑た格好をさせるなど……ああっ、ご、言語道断っ、にゅふう」

アルヴィネラ (はぐうっ、下と一緒に唾液がっ……らめえ、興奮しちゃうっ♥♥)

唾液をたっぷりたえた舌を交差させあい、互いに気持ちを高めていく。気づけば理事長の腰づかいも激しくなっていて、根本まで肉棒を飲み込んで、催促するように尻を振っている。二人の腰が前後に揺れる動きが大きくなっていく。ヒクヒクとぞわめく膣ヒダは、もっと力強い抽挿を求めているみたいだ。

アルヴィネラ「あひっ、おっ、あっ、もっと♥、もっと♥ 腰を盛った犬みたいにぶち込んでえっ ンあああっ!!」

派手にヨダレと母乳を飛ばしながら理事長メイドが喘ぎまくる。もはや威厳などこにも見当たらない。ただひたすらに快楽を求めるメスと化している。



アルヴィネラ「くっ、ああっ、サキュバスなのに……おまんこ感じすぎて、溶けちゃうっのお、あああっ!!」

歓喜に目を潤ませて、理事長は大胆に腰を使う。動くたびに愛液が結合部から外に漏れ出し、グチュグチュと卑猥な音を奏でる。いつもの理事長の凛々しい面持ちは完全に崩れ、すっかりだらしく蕩けたメスの顔を晒している。

アルヴィネラ「はああっああっ、いやっ、激しいいいっ、あああっ!!」

激しく腰を振り乱し、硬く張り詰めた勃起で膣内を掻き回すと、どんどん理事長の声が艶かしくなっていく。俺の律動とタイミングを合わせて、大胆に自分から腰をぶつけてくる。根本まで肉棒が膣穴に埋まり、先端は子宮口にぶち当たっていた。

アルヴィネラ「ああんっ、ご主人様のだらしないチンポなど……あ、ぐっ、あああ、しゅごいいいっ!!」

「ああっ、お主のチンポが気にいっひゃったのお、もっとじゅぼじゅぼっ、おまんことかひてええっ♥♥」

「うふふっ、射精我慢してるおチンチン、最高にカワイイんですもの。苦しそうにぶるぶる震えてるぅ……あははあっ♪」



フィリス「ふぁあっ……あうんっ、大きく膨らんだおチンチンに、おマンコの奥まで犯しやれてりゅうっ♥ ンっ、ああんっ♥」
俺の上でフィリス先生が淫らに踊る。巨大なおっぱいがブルブルと上下に揺れて、それを見ているだけでヤバイんですが！ さっき吸わせてもらった母乳がダラダラと乳首からあふれて流れ落ち、先生が動くたびに俺の上に降ってくる。

精炎「せ、先生っ……お願いだからイカせて……」

フィリス「あああっ、おチンチンで突かれまくって、ろんろん気持ちよくなっぴやうっ♥ もっろ、もっろ、おマンコの中、ぐりぐりしてええん♥♥」

先生、まったく聞いてねえ——っ!!

フィリス「キミの立派なおチンチンで、先生の濡れまくりおマンコをめひやくひやにしれえ——っ♥ ンあっ、あふう、はっ、はあああっ♥♥」

フィリス先生は大胆に腰を振りながらペニスを肉穴で咥え込む。ヒダヒダが亀頭に絡みついてくるだけで、泣きそうなほど気持ちいい。

「あらあら、素直ない子でちゅねえ。ごほうびに、おチンチンたくさん擦ってあげましょうね……はい、しこしこ……ん」



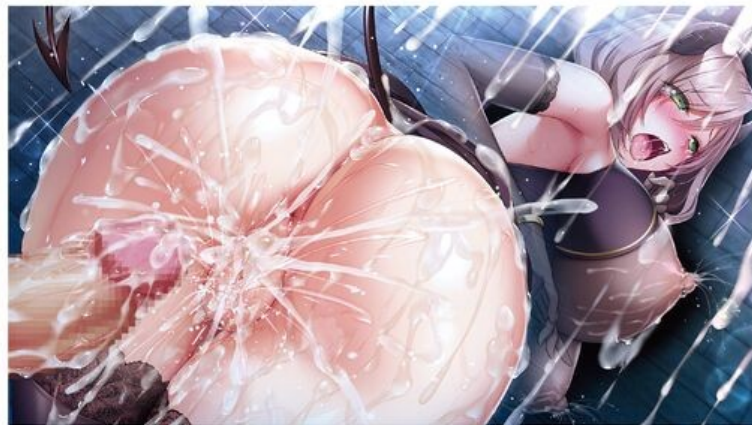
フィリス「あらあら、お口が止まっちゃいましたよ？ そんなに気持ちいいでちゅか？ うふふ♥」

精炎「うう〜っ、ボクも負けない!」

そう言って舌でベロベロ、唇でチュプチュプを続けるが……いかん、気持ちよすぎて集中できない。フィリス先生、かなり本気モードで手コキに没頭してます!

フィリス「はふん……ショタきゅんなのに、こんなにガチガチに硬くしちゃって……ンン……けしからんでちゅねえ……はあ……はあ……。あああ……凛々しく勃起して……こんなにカワイイのに男らしくてたくましいでちゅよ……ンフ、フフっ、ンンっ、はあん……♥」

鼻息も荒く、手で包み込んだ肉棒をねっとりと愛撫してくれるフィリス先生。しつこい。なんてしつこい濃厚な手コキなんだ。



「ひいっ！ ひいっ！ ひいっ！
 そ、そこはダメえっ！ は、恥ずかしい
 からっ、ダメっ、見てもダメっ、
 触るのはもっとダメえええ——っ♡♡」

フィリス先生は、壁の向こうでひととき大きな嬌声をあげる。

フィリス「こ、こらっ、や、やめなさいっ、あっ……ああああっ、ダメえっ、そこ……シンンっ、敏感なとこ舌で舐めたりしちゃダメえっ！」

フィリス先生がまたテレパシー的なスキルで叱ってくる。

精炎「れも、もうグチョ濡れれふよ、じゅるるっ」

フィリス「きゃっ……や、やああん、く、口を、押し当てたましやべらないでっ……ンっ！ あああっ!!」

左右の花びらを交互に吸いたてて、舐め上げる。小さな肉粒にキスをして、唇をくっつけたまま舌を這わせてやる。

フィリス「はひいっ、クリトリスしゃぶらないれえっ！ ダメ、ダメっ……あふうっ……ああうっ、ンっ……はあっ、はああっ……」



頭を上下させながら、小さな唇からたっぷりと唾液を乗せたヌラつく舌で裏筋やカリ首や亀頭を舐めて。すばめた唇で見せつける様に亀頭にキスをして、わざと音をたてて吸い付く。

アンジェリカ「んはああ♥ おツユと汗でギトギトしててすごい味い♥ 魔力も精気もたっぷり溢れて……ああ♥ おいしいおチンポ♥」

精炎「アンジェリカさんがエロく舐めるから、めちゃくちゃ興奮しちゃってますっ」

まだまだ、これは序の口だと思えば、嬉しくてチンポが跳ねてしまう。

アンジェリカ「だめだめえ♥ これは懺悔なんだからあ、悦ぶんじゃないで悔い改めなさいっ♥ れりゅうう、ちゅっ、ちゅっ、ちゅるるう♥」

精炎「それは無茶ッ! ああッ!!!」

「ビクビク脈打っててえ、エラも出っ張っててえ、
とってもエッチなニオイ♥ ステキステキ♥
この凶悪チンポでどんな悪い事をしたのお♥





アンジェリカ「んんっ、おっ♥ おっ♥ おチンポ縮めてお尻振るのっ、最高らのおお♥ はへええっ♥ あっ、あっ♥ ドスケベおマンコいっぱい味わっれえっ♥」

ドンッと尻を叩きつけられる衝撃が、股間から響いてくる。重さとハリが心地よく下腹を叩きマッサージされているような気分になってくる。マッサージにはチンポが気持ちよすぎるが。

アンジェリカ「うううっ♥ はあはあっ♥ またイクっ♥ すぐイっちゃうんっ♥ おマンコ敏感になっれりゅううっ♥ あはああっ♥ あああアツっ♥」

尻振りの勢いとプリプリの膣肉の感触はそのままに、また抽挿しながら絶頂している。イキながら同時に何かするなんて、普通は無理だ。種族としての強みってやつか！

アンジェリカ「さっきまれ処女らっらのに、もう貴方様のおチンポれ、おマンコイキまくりいい♥ ろっれもしあわへえ♥ はああん♥」

「見れ見れえ、またイクからあッ♥ 貴方様のおチンポでイク悪魔を見れええ♥ はああ、あっはああああッ♥」





「こうですか？ んく……異性に見られるのってすごく緊張しますね……しゃばいですね。え、えへっ!!」



毛なんて生えていない温まっている秘肉に、指先を這わせてくすぐると、膣口やアナルがキュッと緊張する。しかし、すぐにまるで酸素でも欲しがるようにゆったりと開く。ブルブルとお尻やおっぱいを震えさせながら従ってくれるリジィちゃんの態度にも、そそられる。

リジィ「あああ……指でオマンコをくちゅくちゅされると、なんだか気持ちよくなっちゃって、毛を剃るっていうより、まるで……はあはあ♡」

精炎「エッチしてるみたい？ 毛を剃りながらエッチできるなんて、お得だろ？」

マジカル剃毛クリームがなじんだのを見計らって、魔導書から絶対に肌は切れないマジカル安全剃刀を召喚し、リジィちゃんの下腹に乗せる。

リジィ「あうっ、うう……ンッ……あっ♡ ふふっ♡ くすぐったいですっ♡ ああっ、あははっ♡」

さすがマジカル。素人が剃毛しているにも関わらず、リジィちゃんは気持ちよさそうに顔を緩ませた。



リジィ「オチンボもビクビクっれえ♥ オマンコのナカで跳ねれましゅっ♥ パンパンに膨らんだオチンボれ抜けられるの気持ちよしゅぎましゅ♥」

ラフィ「はああ、ザラザラの舌でクリトリス擦りゅのお、やめられにやひいっ、ああっ♥ 恥ずかしい汁、いっぱい飲まれりゅう♥」

精炎「うぐっ! うっ……ンン……!!」

腰振り踊り狂うスケベなメス達の勢いにのまれ、チンポがドクドクと射精に向けて準備をし始める。

リジィ「んおおっ♥♥ グリッれ♥ 今、グリッれええ♥ おっきいオチンボで子宮ちゅぶれりゅう♥ はひい♥」

精炎「はぐっ!! んぶっ、ぢゅっ、ぢゅるるうっ!!」

ラフィ「ああああッ♥ 吸われりゅの怖いっ♥ オマンコ食べられちゃううっ♥ ひうううん♥」

とっくに快楽に飲まれているリジィちゃんとラフィちゃん。止まらないといった様子で、グリグリと股間を押し付けて、射精寸前の俺から快感を貪っていた。



「私も同じれす♥ ずっとイキ続けてましゅ♥ ンン……
熱い子種を受けれっ、子宮が嬉しくてキュンキュンっれえ……はああ♥」





リラ「ああ……恥ずかしいのに自分からお尻……押しつけちゃってるう……あああ
っ♡ はあぁんっ！ んん、んはあ……あへええ……♡ イキ、まひゅううう
……♡ イキそうでひゅうう……♡♡」

精炎「くう……ふう……いいおマンコです、リラさん……っ」

リラ「はひい……い、い、いわないでえ……あっ、あっ、あああ……独り言から
あああ……♡♡」

精炎「はあ……マンコ、アツアツですね……クールな雪女かと思ったら、とんだド
スケベ淫乱マンコの持ち主だったんですね……はあ、ふう……」

リラ「あ、あああ……らめえ……みんな見てるのに……いろんな人が来てるのに
い……あ、ああ、はあ……はあぁん……♡」



「あっ、あっ、あッン、お願い……妊娠しちゃうくらいたっぷり……
ああっ、好きなだけ出してもいいわよ……はあ、はあ、はあぁん！」



噴水のように宙に噴き上がった精液が、ビチャビチャとリラさんたちの
肌に降り注いでいく。射精も射乳も、まったく勢いが衰えないまま、全
員が粘つく白い液体を身体に浴びている。精液を肌で受け止めなが
ら、なおもビクンビクンと絶頂し続けるフロス村の皆様。とても絵になる
光景だった。

レモナ「はあはあ……んんふう……お兄ちゃん……すごく温かいのが流
れてくるの……わかるよ♡♡」

肌に付着した白濁液を、ボディローションのように肌に塗り拡げるレモ
ナちゃん。

アーネス「ああぁん……こんなチンポの味覚えちゃったら……クセにな
っちゃうの♡♡」

アーネスさんは喘ぎながら恍惚の表情を見せている。

シャーラ「あああ……もう腰が……抜けちゃってダメれすうっ♡♡」

シャーラさんも荒く息を吐き出しつつ、グツタリと俺に寄りかかってきた。

「あああっ、すごいキミの
ドスケベお・チン・ポ……ンンっ、
呪いといっしょにおマンコも
溶けちゃうわ♡」(リラ)



「ああああ、それはならにゅうっ♥ 尻の穴で
気持ちよくされている姿なじよっ、見られらあ、
生きれおられにゅうっ♥ おっ、おおお♥」

ベルダ「尻の穴、チンポれこすれりゆのっ♥ きもひいいかりやっ♥ あああ、早くおわらせれっ♥ はひあ、ああおっ♥ お願いりやああ♥」

とうとう理性を欠いて、アナルの快感を受け入れてしまうベルダさん。ちょっとマゾっ気もあるのかもな。初めてのアナルセックスで、泣くくらい悦んでいる。

ベルダ「んんっ、はあああっ、ああああ♥ 尻の穴にチンポがひっかかれっ♥ はらわたがひっぱられっ♥ ふう♥ ふう♥ ううんっ♥」

快感にすっかり飲まれて、バタバタと足をバタつかせて、イヤイヤと首を振る。ゾリゾリッとチンポが腸壁にはっきり擦れると、母乳が勢いよく噴き出す。なんて可愛いくいやらしい姿だ。股間がさらに熱くなる。

ベルダ「おっほおおお、ああああっ♥ あああっ♥ イヤイヤのにいい♥ 尻の穴れっ、イクっ♥ イクっ♥ んはああっ♥」



その言葉が嘘ではないと証明するかのように、マロンはうっとり目を細め、口の端からヨダレを垂らす。

精炎「マロンは感度もいいし、もともとエッチな素質があったんだなっ」

マロン「はあっ、はあっ、ンっ、く、くううっ♡ 船長しゃまに開発してもらえて感謝れしゅう♡ はううっ、う、うはあっ、ふあああっ♡」

いきり立つ肉槍が、マロンの奥の奥まで犯していく。マロンもそれを嬉しそうに受け入れて、リズミカルに腰を動かし、快楽を食る。

マロン「あう、ふあっ……うううっ！ 立て続けに二度目なんて、すごすぎですうっ！ あっ、あっ、あっ、あっ！ きゃううんっ♡♡」

精炎「もう慣れたから怖くないだろ？」

マロン「はいっ♡ あ、ンっ！ ふあっ、もう、何度でも航海しちゃいますうっ！ ンあっ、はっ、はひっ♡ はあっ、あっ、ンンんうっ♡」



「変になっちゃいましゅっ♡ 大きな波に飲み込まれそうれしゅっ♡ うあああああっ！ あう、あううっ！ ひゃあああっ♡♡



シトラ「ひぐう！ ひゃへええ……
あ、ああ、チンポが、ゴツゴツぶつか
って、くるう……あああん、すごい
……おチンポ、いいよ～……♥
見てえ……おマンコから、さっきの精
液、溢れてるよお……はあ、はあ……
んっ、あああん……♥」
先程放出した精液が、割れ目から滴
り落ちてくる。愛液と入り混じり、かす
かに泡立ったトロトロがチンポの根本
をビチャビチュに濡らしてしまう。

シトラ「あはあ……はへえ……んん
っ、くうん……♥ チンポいい～～
……はー……はー……チンポ、いい
よお……チンポ、おチンポお～～
……♥」

精炎「ううう、くう……おマンコが縮
め付けてくる……中がグネグネうね
てるっ」

シトラ「あはあ……おマンコが、ずー
っと大悦びしてる……あ、ああ……イ
クのが、止まらないよお……はあ、は
あ……あへええ……♥」

「あうう……気持ちいい……駄目え……あ、
ああ……駄目ええ……出されちゃうう……お
マンコに命の素が、注がれちゃうう……♥」

「ハピネスのまんこがトロトロでらめらめになっちゃう前にしれえ♥ ご主人サマの赤ちゃんの素、いっぱいハピネスにちょうらい♥」



膣内で熱汁の奔流を感じ取ったハピネスは、前後の動きを止めて痙攣を始める。脈打つチンポに膣が反応して、膣道を狭めて、最奥に入ったまま固定する。

ハピネス「飛んれないのに、体中がフワフワっ……はへえ……
♥ あうっ♥ ううっ♥ 頭もまんこもビリビリゾクゾク……んあっ♥」

瞬間に膣内にはドロリと粘着質な熱感が充満し、結合部から卑猥な水音が弾けた。身体の動きは止まっているのに、ハピネスの膣肉は活発的にチンポを揉んで搾る。快感と刺激に過敏に反応したチンポが、膣内で何度も跳ねて熱汁を吐き出した。

ハピネス「ふわああ♥ ご主人サマのちんぽから、あったかいのれれる♥ ちゃんとわかりゆう……しゅごおい……あん♥」
ハピネスは肉付きのよい身体をクネらせて悶える。ハピネスが快楽で震えている姿に見惚れながら、ぴったりと尻に股間を押し付ける。



「はあっ♥ はあっ♥ ご主人サマ……ハピネスね、チンポがいい……♥
ゴロゴロ全部出して、チンポ入れてほしいよお♥」



膣口は拡がりきらず、ハピネスが息むのをやめると、途端に内部に戻っていく

ハピネス「はあっ♥ マンコの中でゴロゴロの感触が強くなるばかりで、上手く出せないよお……ふうふう♥」

精炎「ハピネスのマンコはキツキツだからな。ボールを押し出すんじゃなくて、締めつけているんだ」

踏ん張り続けるハピネスの膣から顔をのぞかせているボールを、指先でつつく。すると、直に触れているワケでもないのに、ハピネスは尻を大きく震えさせた。

ハピネス「やああ、押し込んじゃやらあ♥ あううっ♥ ご主人サマのいじわるいじわるっ♥ ううっ、んあっ♥」



「んっ……あ、ああっ……あああっ、ひああっ……
入りきりにゃくてあふれてりゅよお♡ あなたの
精液っ……じえんぶ子宮に吸い上げたいのにいい♡♡」



精炎「くうっ、はあはあっ、可愛いぜっ、ラグ！ このまま……ずっとエッチしてたいぐらいだっ！」

ラグジュアル「はふんっ♡ ああん♡ しょれれもいいよおっ♡ 遅いおチンポっ、ずっとハメられてたいっ♡ あんっ♡ ああっ♡ あ、あああっ♡♡」

すっかり従順になって愛しそうにペニスをマンコ肉で抱き締め、キュウキュウと締めつける。

精炎「処女だったとは思えないぐらい淫乱になっちゃったな？ もともと素質があったのかもな」

ラグジュアル「んんっ、んっ♡ ひゃ、ひゃうああんっ♡ こんにやにしたのは、あにやたれしょ？ 人間のくしえに生意気なんからあ……♡ ンんっ……♡」

どうやら正体がバレてしまったようだが、ラグはさほど気にしていないようだ。エッチする前だったら憤慨していたかもしれないけど。お咎めなしということで気をよくした俺は、ラグの濡れそぼつ蜜穴をがむしゃらに突き上げた。



▲学園外観



▲学園外観 (学園祭仕様)



▲学園廊下



▲学園廊下 (学園祭仕様)



▲闘技場



▲教室



▲保健室



▲中庭



▲美術室



▲家庭科室



▲更衣室



▲屋内プール



▲テニスコート



▲音楽室



▲学園購買部



▲理事長室 (儀式)



▲女子トイレ



▲理事長室



▲体育館



▲体育館 (未使用)



▲射撃場



▲寮の主人公の部屋



▲寮の主人公の部屋(夜／消灯)



▲寮の主人公の部屋(夜／点灯)



▲魔恋の部屋



▲ソフィアの部屋(夜／消灯)



▲大浴場



▲談話室



▲ダンジョン



▲きのこの森



▲きのこの森(夜)



▲理容室



▲教会



▲マーメイド喫茶



▲武器屋



▲浜辺



▲馬車車内



▲オカルト研究会の部室



▲オカルト研究会の部室(儀式)



▲空



▲夜空



▲森



▲森(夜)



▲暗転

【夢々崎 魔恋】



MAIN CHARACTER



【キヤルル・レストラム】

【鷺宮 鷹美】



【シャルティナ・ライトガルト】

【キュンキュン・オ・オルガナイト】



MAIN CHARACTER



【エルゼ・イヴ・ディアンタ】

【セレスティア・ラシエール】



【ロザリナ・ラファエル】

【ソフィア・フォン・マナグラス】



MAIN CHARACTER



【ファル】



【アルヴィネラ】

SUB CHARACTER



【ファリス】



【アンジェリカ】



【リジィ】



【リラ】

SUB CHARACTER



【ベルダ】



【マロン】



制服デザイン



Milk Factory みるくふぁくとりー

[リミテッド・インタビュー 2]

LIMITED INTERVIEW 3

～作品を生み出すメインスタッフが語る制作裏話～



みるくふぁくとりー代表

マイブームは、昔流行ったキャラクターのぬいぐるみを集めることというみるくふぁくとりーのスタッフを束ねる偉い人。でも、集めすぎてしまうと置き場に困って大変なので、知り合いにおすそ分けしながら計画的(?)に収集しております。



でらうえあ

仕事中は、コーヒーと牛乳が3:1のコーヒー牛乳(無糖)が欠かせない、みるくふぁくとりーの原画家。「プレイステーションクラシック!アークザラッド2」が終わらない……。



唐子ニコフ

面白そうなソシャゲを片っ端からインスコして盆栽のようにプレイすること、がマイブームのみるくふぁくとりーのディレクター。最近は1年経たずに枯れてしまう盆栽が多いですね……(^.^) 向こうの業界も大変なんだなあとスマホを通して感じています。

サキュバスヒロインの 誕生秘話 (!?)

——2作目『もっと!孕ませ!炎のおっぱい超エロアプリ学園!』の反響などはどのような感じでしたか。SNSをかなり上手に活用されていたと記憶してるのですが、手応えや反響の方はどうだったのでしょうか。

でらうえあ: 1作目のときよりはフォロー数も増えてスタッフ、ユーザーさん皆で作品を盛り上げられたかなと思いました!

——デビュー作のときよりも、手応えがあったんですね。色々挑戦した広報展開が良かったんでしょうね。そして迎えた第3作目となる本作ですが、これまでと違ってヒロインの幅をかなり絞った印象なのですが、種族をサキュバスに絞ったのは何故でしょうか。

みるくふぁくとりー代表 (以下、代表): わかりやすい直感的なドスケベ設定だったので企画を進めました。常にエッチな設定を追いかけておりますので、今回の企画もご期待いただければ……!
——エロの表現や描写の方を優先させ

たということですか。そうすると、キャラメイクに苦労されたりはしなかったですか。

ディレクター唐子ニコフ (以下、唐子):

キャラの文字設定に関しては“サキュバス”自体が既に“エロい”という一般認識なので、そのサキュバスをアプリと絡ませてパブリッシュ的によりエロくアピールするようなキャラ設定やキャラのシチュエーション設定が難しかったですね。

——やはりキャラメイクは大変だったのですね。でもエロの面では、逆にやりやすそうな印象を持っていたのですが……。

唐子: サキュバス=エロエロですよーだけの短絡的な思考停止アピールだとユーザーにスルーされるので、王道的なエロシチュエーションとのバランスに苦労しました。

——ユーザーの想像を越えるプラスアルファや飽きさせないバリエーションというのは、確かに悩みどころですね。

唐子: サキュバスのイメージが誘惑的で主人公が何もせずともセックスを求めてくる……というのが一般的なサキュバスのイメージなので私自身、開発す



▲口元にも、漫画表現から取り入れた演出が施されている。舌を大きく出すアヘ顔と、口の周囲を歪ませる悦顔。日常の嬉しい顔とは一線を画す表情だ

る前はサキュバスのエロに関して食傷的な感じを持っていました。先ほども言いましたが、サキュバスというのは既に存在自体がエロくエロのハードルがあがっているの、サキュバスに羞恥をあたえるようなシチュエーションやサキュバスのにお約束シチュエーションなどをバランス良く盛り込むのに苦労しました。

——エロに積極的なキャラを辱めると、キャラは普通に喜んでしまいそうで、手腕が問われるところですね。どういう風に解決されたのでしょうか。

唐子: 学園設定をもとに“性的ギャップのある設定のキャラ”や“身体的に性的な悩みのあるキャラ”など、全て何かしら“性的な”問題・特徴を抱えるようなサキュバスをつくるようにしました。

——弱点や特異性を持たせることで、辱めるポイントを付加した訳ですね。

唐子: 実はこの企画を進める前に、とある方から「今更サキュバス大丈夫ですか?」と警鐘を頂いたのですが、たしかにサキュバスを題材にした既存ゲームなどが結構あるので食傷気味かと不安もあったのですが、“10人のサキュバ



▲本作には、サブヒロインにそのまたサブのキャラが3人絡むシーンも用意されている。登場する半分以上のキャラについて知識が無くても満喫できるのが、みるくふあとリー作品の魅力だ

ズ”“サキュバスの学園”という内容のものはリリースされていないと思うので、そこにガ○アの夜明けというか囁きがあったような感じがしました。

——多人数ヒロインであることや学園を舞台にするといった、みるくふあとリーが掲げているブランドのコンセプトが、その不安を解消してくれたというのも、面白いですね。

さらに強化させた演出とこだわり

——キャラメイク以外で、本作を作るにあたって一番苦労したのはどこでしょうか。

唐子: 原画の枚数が多いのでコンテやプロット作成がキツかったです。

——以前から取り入れているLiveエロアニメが20本以上になっていたりと(前作のほぼ倍の量)、様々なポイントをパワーアップさせていますものね。そういえば前回(『もっと!孕ませ!炎のおっぱい超エロアプリ学園!アートワークス』)の記事で、ボイスを効果的に増やせることになったと言われていましたが、具体的にどのようなことを強化されているのでしょうか。

代表: これはもう身も蓋もない話ですが……音声に割り当てる予算を強化し

ました。それに伴い、ボイス数もうなぎ登りに……でも、作品がよりエッチに、よりヌケるようになってくれるならオッケです!

——(笑)。前作からセリフにハート記号を増加されてますよね。これはボイス数を増加したことと何か関係性があるのでしょうか。

代表: この表現方法は元来エッチな漫画でよく使われている表現なのですが、でらうえあ先生がえちえち漫画家なので、そちら(エロ漫画業界)の表現を輸入した感じです。今後もエッチな表現を広げられる手法があれば、業界問わず取り入れていこうと思っています!

——あくまで表現の演出のためでしたか。ビジュアル面に関することだと、前作からエロCGの表情の細かさにごこだわっておられましたよね。それがキャラの瞳にハートを描いたり、輝かせたりといった表現の強化なのだと思うのですが、あの演出はどうやって思いついたのでしょうか。

代表: ベースは、でらうえあ先生が個人的に制作している漫画を参考にさせていただきました。他にも他社様の作品も拝見させていただき、リスペクトし、イ

ンスピレーションを頂いております!時代の潮流に置いて行かれないよう、常に心の勃起でマスターベーションをし、作品に反映してイキます。

——常に、勉強、勉強なんですね。彩色面においても、デビュー作、2作目、と続けて強化を図られてました。本作でも何か強化をされているのでしょうか。

代表: CGの技術は日進月歩、日速月瞬(造語)なので、常に最先端から置いて行かれないよう各各努力しております。他誌ではございますが、mignon先生の肌塗り本を穴が空くくらい読み、作品へ反映しております。そしてなんと、著者であるご本人様にも彩色していただいております!(宣伝)

——手本にされていて師匠と言える方が参加されているのは、凄いですね。では、本作で一番こだわった部分はどこになるのでしょうか。

唐子: ラフチェックで“おっぱい”のボリュームと肉感的な監修にこだわりました。

——おっぱい! これは愚問でしたね。ときに、みるくふあとリーでは新しいことを取り入れていく方針ということで、今作から射精カウントダウンモードを導入されておりますが、手応えのほどはいかがでしょうか。今後の王道になりそうですか?

代表: システムの評価って、導入するとご不満の評価は無くなるのですが、ご好評の評価と言いますかレスポンスはほぼ無いのですよね……今の所ご不満の評価は届いておりませんので、多分ユーザー様にはご好評なのかな、と思っております

——では、前作から採用しているイベントCGを拡大できるルーベ機能については……?

代表: こちらも上記と同じで、不満をいただいてないので多分ご好評なのかなと……。

——不満評価が無いのは良いことです

「サキュバスというのは既に存在自体がエロくエロのハードルがあがっているのに、サキュバスに羞恥をあたえるようなシチュエーションやサキュバスの性的にお約束シチュエーションなどをバランス良く盛り込むのに苦労しました。」(唐子)

「本作では露出を控えめにしながらもHに見える衣装を模索しましたね」(でらうえあ)

が、もう少しレスポンスが欲しいところですね。これらの新しいことを取り入れるにあたり、基準にしていることなどはあるのでしょうか。

代表: 話題になったもの、バズったもの、人づてに語られるもの、この辺りを基準に、あとは個々のセンスを尊重してゲームへの採用の判断をしております。最終的には個々のセンスが重要になってきますね……。

——センス、一番難しいやつ……。

みるくふあくとり一流のデザインと見せ方

——本作のヒロインのひとり、キャルの髪型とかはとても特徴的ですね。定番となっている縦ロール髪型のキャラもそうですが、取り入れるのに基準とかあるのでしょうか。

でらうえあ: 基本的にはディレクターの指定でラフを起こして、全員横並びにしてから調整する感じですね。

——ヒロイン10人を横並びにしたうえで、バランスを取られているのですか。

でらうえあ: そこで、髪型や髪色変更するキャラクターもいます。

——そうやってキャラを確立させていく訳ですね。多人数ヒロインだと、その調整はかなり大変そうです。差別化のため、軸としている王道から外れてしまうキャラを生み出す、といったこともあるのでしょうか。

代表: 基本として王道を外すことは無いですが、業界内の飽和であったりユーザー様の飽きの対象が王道シチュエーションだった場合は、容赦なく除外することもあります。

——ゲーム内だけでなく、そういう面も捉えてバランス調整されているんですね。今作では、サブキャラの同僚といった血縁でずらないキャラが登場しますが、彼らの資料もまた母親たちと同様に無いのですよね。キャラメイクはどのようにされているのでしょうか。

唐子: キャラメイクは私生活で見ているアニメやソシャゲ、サブカルチャー的な情報から影響を受けたものをベースにオマージュするような形でメイキングしています。それに、簡単な関係者用の内部設定資料は用意しているんですよ。

——そうなんですね。血縁でもないキャラのビジュアル化を、でらうえあ先生はどう対応されているのか、とても不思議だったのですが、では特に苦労することもなく……!?

でらうえあ: ディレクターの好みガッツリ反映された資料がありますので、全然困りません! なるべくこうしたいんだ! という意思を汲み取って制作にあたっています。

——ところで、本作ではでらうえあ先生が衣装のデザインをされているかと思うのですが、1作目以来久々にやってみていかがでしたか。

でらうえあ: 制服設定はいつものことですが大変でした!

——衣装のデザインをされるうえで、一番苦労したことを教えてください。

でらうえあ: 苦労したのは特に制服で、露出を控えめにしながらもHに見える衣装を模索しましたね。

——異世界が舞台のときと現代的な作品のときと、衣装デザインをするにあたり、どのようなことを心がけてますか。

唐子: 肌の露出が多く立っているだけで下半身にささるような原案を原画家さんに出すよう心がけています。

——キャラの見せ方、で思い出したのですが、公式サイトで「キャラビクアップ」があるヒロインと無いヒロインがいますが、何か理由があるのでしょうか。

唐子: そのときの仕事の繁忙で決まったり……ではなく大体半分ほどという設定で製作しています。

みるくふあくとり一が見据える今後の展望

——デビュー作の発売記念イベントとして始まったでらうえあ先生のサイン会。今回は追加開催までされてますので、ユーザー様の反響が凄かったのだと想像に難くありません。開催対応のご苦勞や、開催してみてもの感想などを教えてください。

代表: 確かに、初の追加開催でしたね。発売日、思ったより早く全員プレゼントの品がなくなってしまって……せっかく来てくれた方がくじを引けないということがありました。急遽2回目の追加開催を決定したのですが、再度また新しい賞品の製作や告知が大変で……でも、多くの方に参加いただけたので本当によかったです。

——ウイルス感染対策などが必要な状況下で、しっかりファンと交流できて良かったですね。でもサイン会を地元で開催されたりはしないのですか? ブランド名や前作のキャラ名の成り立ちを考えると、むしろ地元優先で開催されてもおかしくないように思っていました。



▲母親ハーレムエンドが実装されるなど、ユーザーの要望を取り入れた本作には、もちろん母親のみのイベントが複数用意されている



▲股間がギンギンになってしまう妖艶な姿で表紙を飾ってくれているのは、ヒロインのひとり夢ヶ崎魔恋。表紙の差分イラストは他にも掲載されているので、探してみてね

代表: 1作目のときから札幌のとらのあなさんの店舗内を一部お借りしてやっていた。しかし、今は店舗がなくなってしまったので難しいかもしれません。

——今回、東京開催だけだったのはそういう事情があったのです。次回作までに状況が好転するといいですね。話は変わりますが、独立してからキャラのエロシーンを増やせるようになったことで、実際に1作目、2作目、3作目と、CGボリュームが増加していますが、これは今後も続けていかれるのでしょうか。

代表: もちろんでございます！ 弊社が継続する限り、作品を重ねる度に、常に前作を超えるリソースで作品をリリースする予定でございます。私の目が黒いうちはCG枚数を減らさせませんのでご安心を！

——その意気込みを体現するかのよう

に、本作では母娘井どころか、母親ハーレムまでもが用意されておりますが、母親の人気ぶりは、どれくらいお手元に届いているのでしょうか。

代表: ユーザーの皆様からもメールなどでご好評を頂いております、ありがとうございます！ 次回作でも、もっともっと増やしていければなあ……と思っております。

——例えばですが、それは今後、母親をメインとした『もっと！孕ませ！』シリーズの企画が生まれる可能性もある、ということでしょうか。

代表: それは今後の売上だったりユーザー様の反応しだいの部分もございますね……今後、何かしらの作品と言いますか商品（例えばアペンドなど）をリリースして、こちらの反応が良ければ……！

——可能性はある、と。さて、本作が発売されてから約1年半。そろそろユーザーも次回作を期待してる頃かと思います。そんなみるくふあくとリーファンの皆さまに、一言ずつ頂けますでしょうか。

代表: いっぱいヌケる作品をこれからも作ってまいります！ 応援よろしく願いいたします！

唐子: 次回作に向けて現在作業中で多忙を極めております。母親に関しましてユーザー様から比較的要望の強かった部分を“新しいシステム”として導入しましたので、ユーザー様の期待に沿えるような結果になれば幸いです。

でらうえあ: 次回作、私もまた皆で盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします～～！

——全3回に渡ってご協力頂きまして、本当にありがとうございました。

「もちろんでございます！ 弊社が継続する限り、作品を重ねる度に、常に前作を超えるリソースで作品をリリースする予定でございます。私の目が黒いうちは CG 枚数を減らさせませんのでご安心を！」（代表）



もっと! 孕ませ! 炎のおっぱい異世界超エロサキュバス学園! アートワークス

2022年10月14日 初版第1刷発行

発行人	中沢慎一
編集	メガストア編集部
監修・協力	みるくふぁくとリー
装丁・デザイン	株式会社 Sorairo
発行所	株式会社 コアマガジン
	【営業】
	〒171-8553 東京都豊島区高田 3-7-11
	電話 03 (5950) 5100
	【編集】
	〒171-0033 東京都豊島区高田 3-7-11 4F
	電話 03 (5952) 7812

製版	株式会社山栄プロセス
印刷	大日本印刷株式会社

ISBN 978-4-86653-619-4

©みるくふぁくとリー All Rights Reserved.

乱丁・落丁本は送料弊社負担にてお取り替えいたします。ただし中古でお求めいただいたものはお取り替えいたしかねますので、購入された書店を明記の上弊社営業部までお送りください。

本書の一部または全部を、無断で複製複写（コピー・スキャン・デジタル化等）すること、または本書の複製物の一部または全部を無断で譲渡し、もしくは配信することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼して複製複写（コピー・スキャン・デジタル化等）することは、たとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反となります。



もっと! 孕ませ! 炎のおっぱい異世界超エロサキュバス学園!

アートワークス

Let's creampie a young succubus with a lascivious mark.

コアマガジン

18

未済





9784866536194



1920076031823

発行: コアマガジン

定価: 3,500円 (本体3,182円+税)

ISBN 978-4-86653-619-4
C0076 ¥3182E

